

平成29年度前期 授業改善アンケート 質問項目

【選択肢】

A そのとおりだと思う B どちらかといえば、そう思う C どちらかといえば、そう思わない D そう思わない

【設問】

		no.	設 問
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか
		3	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか
		4	あなたはシラバスに示された「到達目標」を達成しましたか
授 業	内 容	5	授業はシラバスに記載された内容で行われましたか
		6	あなたは授業内容を理解できましたか
	教 え 方 等	7	教員の説明は明快でしたか
		8	教員の話は良く聞き取れましたか
		9	授業の進め方は、内容等を理解する上で効果的でしたか
大学からの質問	環境・設備等	10	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか
		11	参考書等が図書館に揃っていますか

1.概評

この授業改善報告書は、一般教養科目109コマ(前回110コマ)、回答者数9272名(前回7949名)を対象としている。評価は前年度と前々年度のそれぞれ前期と比較すると、全体として緩やかに右肩上がりの傾向を示している。肯定的評価(A+B)はほぼすべての項目で9割を超えており、好ましい状況と評価できる。これに届かなかったNo.3の授業外での学習状況86.7%と、No.11の参考図書の図書館所蔵88.7%が課題である。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	12.8 (14)	20.2 (22)	38.5 (42)	18.3 (20)	6.4 (7)	1.8 (2)	0.0 (0)	[学生] No.3の授業外学習以外については、肯定的評価が向上している。これは学生の教室での積極的取り組みを促す工夫を凝らした講義が展開されるようになった結果とみるべきか、学生の自己評価の向上とみるべきか、あるいはその両方であるかの判断は難しいが、好ましい傾向である。課題となっている授業外の学習を充実させるために、予習を前提とした授業運営の徹底を推進したい。
	0.0 (0)	7.3 (8)	13.8 (15)	43.1 (47)	29.4 (32)	6.4 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.9 (1)	7.3 (8)	16.5 (18)	19.3 (21)	24.8 (27)	10.1 (11)	7.3 (8)	8.3 (9)	5.5 (6)	
	5.5 (6)	9.2 (10)	8.3 (9)	17.4 (19)	30.3 (33)	22.0 (24)	6.4 (7)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	3.7 (4)	4.6 (5)	13.8 (15)	16.5 (18)	19.3 (21)	25.7 (28)	11.0 (12)	3.7 (4)	1.8 (2)	
	7.3 (8)	13.8 (15)	17.4 (19)	29.4 (32)	23.9 (26)	7.3 (8)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.9 (1)	3.7 (4)	13.8 (15)	29.4 (32)	23.9 (26)	15.6 (17)	10.1 (11)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	6.4 (7)	12.8 (14)	28.4 (31)	38.5 (42)	12.8 (14)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	6.4 (7)	8.3 (9)	19.3 (21)	34.9 (38)	17.4 (19)	10.1 (11)	1.8 (2)	[授業[内容]] いずれも肯定的評価が微増している。これは教員が以前よりもシラバスの記載内容を意識し、聞き手の理解度に配慮した講義をしている結果と考えられる。
	2.8 (3)	9.2 (10)	26.6 (29)	34.9 (38)	18.3 (20)	8.3 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.8 (2)	9.2 (10)	11.9 (13)	10.1 (11)	24.8 (27)	16.5 (18)	8.3 (9)	10.1 (11)	7.3 (8)	
	7.3 (8)	10.1 (11)	14.7 (16)	24.8 (27)	33.0 (36)	7.3 (8)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.9 (1)	7.3 (8)	6.4 (7)	8.3 (9)	12.8 (14)	22.9 (25)	21.1 (23)	10.1 (11)	10.1 (11)	[授業[教え方等]] いずれも肯定的評価が向上している。一層の向上に向けて教員の創意工夫が期待されるが、同時にそのための教養教育全体のデザインを再考しなければならない。今後、教養科目のカリキュラム見直しに当たり、コマ数減少によって教員個人の力量・努力だけでは授業の質を維持しきれないような大規模化が一律に導入されることのないよう、基礎科目・発展科目の分類・系統化を行い、効果的な教え方が活かされる教養教育のあり方を考えたい。
	11.9 (13)	11.0 (12)	29.4 (32)	23.9 (26)	17.4 (19)	6.4 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.8 (2)	5.5 (6)	6.4 (7)	5.5 (6)	12.8 (14)	22.9 (25)	21.1 (23)	12.8 (14)	11.0 (12)	
	12.8 (14)	17.4 (19)	24.8 (27)	22.9 (25)	15.6 (17)	6.4 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	2.8 (3)	5.5 (6)	8.3 (9)	8.3 (9)	18.3 (20)	19.3 (21)	17.4 (19)	11.9 (13)	8.3 (9)	
	9.2 (10)	14.7 (16)	22.9 (25)	24.8 (27)	21.1 (23)	7.3 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	6.4 (7)	10.1 (11)	21.1 (23)	21.1 (23)	21.1 (23)	12.8 (14)	6.4 (7)	[環境・設備等] いずれも肯定的評価が向上しているが、参考図書の充実については意識的に図書館への関連図書の購入リクエストを促進し、肯定的評価が9割を超えることを目標としたい。
	9.2 (10)	16.5 (18)	33.9 (37)	26.6 (29)	12.8 (14)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	4.6 (5)	15.6 (17)	31.2 (34)	27.5 (30)	18.3 (20)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.9 (1)	2.8 (3)	16.5 (18)	29.4 (32)	37.6 (41)	11.9 (13)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教養科目のここ数年における経年変化は、肯定的評価の向上という点において望ましい傾向である。ここから学生の教養科目に対する興味・関心は一般に言われているほど低くはない印象が窺われる。ただ、キャリア科目や留学準備科目、体育実技をも含めた一般教育科目全体の傾向であるため、改善のための具体的方針を立てるためには、それぞれの分野別に精査が必要であるものと考えられる。

4.今後の方針

今後実施される教養教育のカリキュラム見直しによって、設置科目数を減らす方向が予定されているため、学生にとって魅力的な内容の科目を充実させ、全体として多彩でバランスのとれた構成を維持することが課題である。コマ減により、大規模で一方的な講義方式の科目ばかりにならないよう、教養科目の分類・系統化を行い、本学らしい教育スタイルとしての少人数教育による教養教育を並存させるように努めたい。

1.概評

平成27年度以降大きな変化はなく、いずれの設問に対しても肯定的評価が80%台後半から90%台というのは、良好な授業が行われているものと推測する（他学科の外国語の専門科目ではどのような結果なのか比較できない点が多少気になる）。外国語科目は英独仏西伊露中韓日【日本語は留学生科目】と多岐にわたり英語以外は初修の外国語であるので、同列に論じることは難しい部分もあるが、学生が英語ならびに英語以外の外国語に興味を持って臨んでいることはうかがえる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	2.3 (5)	9.5 (21)	14.5 (32)	16.3 (36)	24.4 (54)	16.3 (36)	10.9 (24)	4.1 (9)	1.8 (4)	【学生】 問4の「あなたは到達目標を達成したか」の問に対する肯定的な答えが年々高まっているのはうれしいことではあるが、学生のレベルに合わせて授業内容を以前よりも易しくしているとすれば素直には喜べない。問2の「積極的に取り組んだか」に対する100%肯定が多いのは、学生が自分を甘やかしているのだからよいと少々危惧する。
	3.2 (7)	6.8 (15)	19.0 (42)	29.4 (65)	22.6 (50)	13.1 (29)	5.0 (11)	0.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.4 (3)	1.8 (4)	9.0 (20)	11.8 (26)	25.3 (56)	23.5 (52)	14.9 (33)	9.5 (21)	2.7 (6)	
	2.3 (5)	9.0 (20)	20.8 (46)	26.2 (58)	22.6 (50)	13.6 (30)	4.1 (9)	0.9 (2)	0.5 (1)	0.0 (0)	
3	0.5 (1)	1.4 (3)	5.0 (11)	5.0 (11)	9.5 (21)	21.3 (47)	23.1 (51)	19.9 (44)	10.4 (23)	4.1 (9)	
	4.5 (10)	11.8 (26)	27.1 (60)	26.7 (59)	17.2 (38)	9.0 (20)	2.7 (6)	0.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	4.5 (10)	12.2 (27)	20.4 (45)	19.0 (42)	14.9 (33)	15.8 (35)	10.0 (22)	2.3 (5)	0.5 (1)	0.5 (1)	
	0.5 (1)	0.0 (0)	5.0 (11)	14.0 (31)	20.4 (45)	28.5 (63)	17.6 (39)	11.8 (26)	2.3 (5)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.5 (1)	5.0 (11)	5.9 (13)	7.7 (17)	19.0 (42)	25.3 (56)	20.8 (46)	11.3 (25)	4.5 (10)	【授業[内容] 問5の「シラバスの記載通りの授業であったか」に対し否定的な評価が10%を大きく超えている科目については、来年度のシラバスを作成する際に個別に注意を促したほうがよいと思われる。また、「授業内容を理解できたか」に対して、英語非英語ともに内容別クラスで多少否定的な評価が多い傾向がみられるが、これは内容が難しくなるにつれてどうしても生じることである。しかしながら英語Iや非英語の入門クラスで否定的評価が10%を超える科目に対しては、コーディネーターを通して、わかりやすい授業を心掛けてもらえるよう各教員にお願いしたい。
	4.5 (10)	10.9 (24)	27.1 (60)	24.9 (55)	16.3 (36)	10.9 (24)	3.2 (7)	2.3 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	2.7 (6)	6.3 (14)	10.4 (23)	13.1 (29)	21.7 (48)	19.0 (42)	16.3 (36)	9.0 (20)	1.4 (3)	
	1.8 (4)	12.2 (27)	22.6 (50)	20.8 (46)	18.6 (41)	14.9 (33)	5.9 (13)	2.7 (6)	0.5 (1)	0.0 (0)	
7	0.9 (2)	2.3 (5)	3.2 (7)	5.9 (13)	5.9 (13)	14.0 (31)	19.0 (42)	20.8 (46)	16.3 (36)	11.8 (26)	【授業[教え方等] 一クラスだけ担当している場合には何とも言えないが、複数クラスを担当している教員に関しては、否定的評価の高くなっている教員が散見される。授業内容の向き不向きもあるかもしれないが（例えば日本語の説明がある程度必要とされる入門・初級クラスをネイティブに担当させる）、非常勤の数に限りがあり授業時間帯も制限されているので現状では難しい問題である。ただ、常勤教員に対しては猛省を促したいし、非常勤教員に対してもあまりにパーセンテージが高い場合には注意したい。
	12.7 (28)	19.0 (42)	27.1 (60)	18.1 (40)	10.9 (24)	8.6 (19)	1.8 (4)	1.4 (3)	0.5 (1)	0.0 (0)	
8	0.5 (1)	1.4 (3)	4.1 (9)	2.7 (6)	5.4 (12)	13.1 (29)	14.9 (33)	20.8 (46)	20.8 (46)	16.3 (36)	
	18.6 (41)	21.7 (48)	25.8 (57)	16.7 (37)	9.0 (20)	5.4 (12)	1.8 (4)	0.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.5 (1)	3.2 (7)	4.5 (10)	5.4 (12)	10.9 (24)	10.0 (22)	23.5 (52)	19.5 (43)	14.9 (33)	7.7 (17)	
	9.0 (20)	19.9 (44)	28.1 (62)	21.7 (48)	9.0 (20)	8.6 (19)	2.7 (6)	0.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.5 (1)	0.0 (0)	1.4 (3)	1.8 (4)	3.2 (7)	7.7 (17)	14.5 (32)	27.6 (61)	29.4 (65)	14.0 (31)	【環境・設備等】 クラス人数・教室についてはおおむね良好であると判断するが、「図書館に参考書等が揃っているか」という問は無効回答が一番多かった（といっても5%程度ではあるが）。学生がどの程度の頻度で図書館を利用しているのか、また、資料の探し方をきちんと心得ているのかも気になるところである。
	19.5 (43)	31.7 (70)	26.2 (58)	12.7 (28)	4.5 (10)	4.1 (9)	1.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.4 (3)	3.6 (8)	10.0 (22)	11.8 (26)	22.2 (49)	21.3 (47)	19.0 (42)	6.8 (15)	4.1 (9)	0.0 (0)	
	3.6 (8)	5.9 (13)	14.9 (33)	23.1 (51)	24.4 (54)	19.5 (43)	5.9 (13)	2.7 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

英語ⅠⅡ、非英語の入門クラスに関してはこれまでのところ各学科との調整がうまく行われているため、人数に大きなばらつきは見られない。非英語を履修希望の学生は90%以上が1年生であるが、年によって希望が集中する語学があり、第二希望に回ってもらう学生が少数ではあるが存在する。こうした状況の下で「英語力のアップを図る」とことと「初習語学を学んで英語とは異なる地平があることを学生に伝え、ある程度の学力をつけさせる」という2つの多少目的の異なることに総合教育センターは取り組んでいかねばならない。英語にしても非英語にしても入り口には大勢の学生が集まるが、2年目以降の内容別クラスになると人数がかなり減少する傾向がみられる。学生の学習意欲有無もさることながら、語学力を伸ばしたい学生に対しては極力門戸を開いておくことができるといいと思われる。

4.今後の方針

平成31年度からは学部・学科によって履修必要単位数が再び変わるので、学生が履修しやすく、なおかつ効果的な学習効果があげられるようなクラス数・時間帯を模索する必要がある。外国語学習は演習科目であるため、少人数クラスと30名を超えるような大人数クラスとでは、教員の目配りの届き方を含め学習効果に差が出て来るものである。多くの外国語単位を履修する必要がある学科に対しては、今後設置時間帯を協議せねばならない。また、10名未満のクラスに対してもすぐにそのクラスを閉鎖するのではなく、2・3年間のタイムスパンで開講か閉鎖かを考えていくべきではなかろうか。

1.概評

いずれの項目でも肯定的評価が約94%を超えており、全体としては良好である。学生の実態と要望に合った授業ができていると言える。ただ科目によっては課題が見られた場合もあり、非常勤講師を含めて、教職課程全体で、学生の実態と要求を把握し、授業のあり方についての共通理解を図っていく。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	17.9 (5)	21.4 (6)	35.7 (10)	10.7 (3)	10.7 (3)	3.6 (1)	【学生】 前回までと同様に「授業への積極的参加」（No.2）と「授業外の学習」（No.3）は多くの科目でA評価の割合が高くなっているのに対して、「到達目標の達成」（No.4）ではB評価が多い傾向にある。積極的に参加できるような授業づくりが大切であることは当然であり、主体的に取り組むことのできる内容にしていく必要がある。「到達目標」については、授業終了時点で達成したかどうかを学生自身が判断できるような目標を設定することが重要である。
	3.6 (1)	14.3 (4)	25.0 (7)	21.4 (6)	28.6 (8)	7.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (1)	3.6 (1)	32.1 (9)	7.1 (2)	32.1 (9)	14.3 (4)	7.1 (2)	
	10.7 (3)	7.1 (2)	35.7 (10)	25.0 (7)	17.9 (5)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.7 (3)	17.9 (5)	28.6 (8)	10.7 (3)	14.3 (4)	14.3 (4)	
	14.3 (4)	14.3 (4)	32.1 (9)	21.4 (6)	14.3 (4)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	7.1 (2)	10.7 (3)	17.9 (5)	21.4 (6)	21.4 (6)	14.3 (4)	7.1 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	10.7 (3)	21.4 (6)	14.3 (4)	14.3 (4)	35.7 (10)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	7.1 (2)	28.6 (8)	35.7 (10)	17.9 (5)	7.1 (2)	【授業[内容]】 概ね良好であるが、No.6の「内容理解」についてはA評価が2割以下のものから100%までばらつきがあった。すぐに理解できる授業が望ましいとは言えないが、前回は述べたように、内容が高度であったため難しさを感じたというよりも、授業内容と試験との整合性、配付資料などの問題といった授業運営による面があると思われる。
	7.1 (2)	10.7 (3)	53.6 (15)	17.9 (5)	7.1 (2)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.7 (3)	17.9 (5)	10.7 (3)	14.3 (4)	32.1 (9)	10.7 (3)	
	14.3 (4)	21.4 (6)	25.0 (7)	21.4 (6)	10.7 (3)	7.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	7.1 (2)	17.9 (5)	14.3 (4)	25.0 (7)	32.1 (9)	【授業[教え方等]】 この項目は授業【内容】と連動している。全体としてはA評価の割合が高くなっているが、やはり授業によるばらつきが大きい。教職科目は「教えることを学ぶ」科目であるため、「教え方」も指導内容の大きな要素であることを自覚することが重要である。
	32.1 (9)	21.4 (6)	32.1 (9)	3.6 (1)	7.1 (2)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (1)	3.6 (1)	32.1 (9)	25.0 (7)	32.1 (9)	
	28.6 (8)	35.7 (10)	25.0 (7)	3.6 (1)	3.6 (1)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.7 (3)	21.4 (6)	7.1 (2)	21.4 (6)	35.7 (10)	
	32.1 (9)	28.6 (8)	14.3 (4)	14.3 (4)	7.1 (2)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	3.6 (1)	17.9 (5)	25.0 (7)	25.0 (7)	25.0 (7)	【環境・設備等】 教室の環境については改善が見られ、学生からの評価が高くなっているが、図書館の資料についてはまだ不十分であると感じている学生が多い。
	21.4 (6)	39.3 (11)	25.0 (7)	10.7 (3)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	10.7 (3)	21.4 (6)	28.6 (8)	21.4 (6)	10.7 (3)	3.6 (1)	
	3.6 (1)	14.3 (4)	35.7 (10)	32.1 (9)	3.6 (1)	7.1 (2)	0.0 (0)	3.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

前回も述べたように、教職科目は、ほぼすべてが必修であり、学生の選択の余地がない。また様々な学科の学生が履修しており、授業内容への関心も多様である。また教職を強く志望する学生と、教員免許取得のみを目指す学生が混在しており、後者が圧倒的多数である。さらに学生と教員とのつながりも授業に限定される場合が多い。しかし反面では、学科や学年の異なる学生がともに授業を受けることでの刺激や発見の場になることもある。基本的には授業での指導の充実を第一に考え、学生自身が教師となる(あるいは教員免許を取得する)ことの意味を考えられるような「しかけ」を工夫することが求められる。

4.今後の方針

学生に対して教職課程履修の目的を明確にするよう促し、学習への動機づけを高めるようにする。また教員免許取得のみを希望する学生に対しても、免許取得が教員としての資質能力を保証するものであることへの自覚を促し、授業内容へのコミットメントを高める。同時に、非常勤講師を含めて、学生理解、授業運営について共通認識を持つよう、一層の情報共有を図る。

1.概評

当科では今学期、共通質問11項目のうち10項目において大学全体の肯定的評価平均を超えることができた。唯一下回ったのはno.2の項目であり、学生自身の厳しい自己評価の結果とも考えられるが、改善の方法を考えねばならない。なお、ゼミやスキル系科目を中心とした比較的少人数の科目が高評価であることは例年通りだが、それらの科目を除外してみると、言語学系および古典系の科目の高評価が確認できる。とりわけno.4「到達目標達成」に関しては古典系科目の高評価が目立ち、学生の方でも挑戦意識をもって受講した上で達成感を得ている様子が見える。また、昨年度からオムニバス形式とした日本文学入門については、古典系A・近現代系Bともに高い評価となっており、授業形態を改めた効果が発揮されている以上に、学科を代表する科目としても十分に評価されてつつあると考える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤<10	10≤<20	20≤<30	30≤<40	40≤<50	50≤<60	60≤<70	70≤<80	80≤<90	90≤≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.7 (4)	8.3 (9)	23.9 (26)	28.4 (31)	22.9 (25)	8.3 (9)	4.6 (5)	[学生] no.1の「シラバス確認」は、新しいアンケート形式に変わって以降で、最も高い数値となった。別途学科質問で、「受講前からの興味の度合い」を訊いているが、そちらでのA評価も3.4ポイント上昇し、個別には新規開講科目が上がっており、学生が興味をもってシラバスを確認している傾向が見られる。一方、no.2「授業での積極性」の肯定評価は唯一大学全体の平均を下回ったが、学科内では前年度前期に比して微増している。いずれにせよこの項目については改善の要が認められ、個別または科会やアンケート等複数手段から学科共有を試みたい。なお、no.4「到達目標」については、AよりB評価の方が高い、またはA・B評価が拮抗している状況であったが、今回はAがBを約3ポイント上回った。この項目と連動する学科質問で、授業の難易度を訊ねているが、「適当である」に該当するA評価が初めて40%を上回り、難易度の内容「やや易しい」「やや難しい」に相当するBまたはCの回答率は、有効回答率の約60%を占めている。その一方で、「適当でない」との回答に相当するD評価も初めて1%を超え、「難しい」に相当するDも2.6%(有効回答率中8%)ながら過去最も高い数値となっている。いわゆる学生の二極化傾向もここには見られるか。
	4.6 (5)	11.9 (13)	33.0 (36)	30.3 (33)	16.5 (18)	1.8 (2)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.8 (2)	0.9 (1)	11.0 (12)	12.8 (14)	14.7 (16)	26.6 (29)	16.5 (18)	10.1 (11)	5.5 (6)	[授業[内容]] 各授業はシラバスどおりに行われており、且つno.6「授業内容の理解」の、肯定評価は前学期を0.3ポイント上回った。no.6の項目に対しては、新方式のアンケートに変わって以降、右肩上がりが続いている。これは、no.4の到達目標達成率の改善と連動していることがうかがわれる。上記にも記したとおり、no.4からは学生の二極化傾向も垣間見えるため、今後またゆまらず有効な策を探ってきたい。
	5.5 (6)	8.3 (9)	25.7 (28)	28.4 (31)	16.5 (18)	11.0 (12)	3.7 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	3.7 (4)	9.2 (10)	21.1 (23)	26.6 (29)	19.3 (21)	12.8 (14)	5.5 (6)	[授業[教え方等]] 前回同様、no.7-9の項目に関しては、肯定回答率はすべて大学平均を上回り、且つ否定回答率はそれを下回っていることである。肯定回答におけるA回答の占める率はすべて70%を超え、とりわけno.8「聞き取りやすさ」は77.4%と8割を目前にしている。当科のカリキュラムにおいては、実習系・スキル系科目が徐々に増えてきておりそれらの科目は概して高評価であることが判明しているが、no.7-9の肯定評価率100%の科目の中には文法や古典講読・文学史も含まれており、学生の中には比較的苦手な者も少なくないだろう分野科目であっても高い評価を得ていることが分かる。また、今期は「到達目標達成度」の肯定率も高まっており、学科の特性を踏まえた心強い結果が出ていると考える。
	5.5 (6)	15.6 (17)	22.9 (25)	34.9 (38)	15.6 (17)	4.6 (5)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	6.4 (7)	8.3 (9)	14.7 (16)	17.4 (19)	26.6 (29)	16.5 (18)	7.3 (8)	2.8 (3)	0.0 (0)	[環境・設備等] no.10、11ともに肯定評価が高まっている。参考図書については、実習系・スキル系科目においても必要とされていることが過去の結果から読み取れるが、確実に肯定評価が高まっていることからして、各授業でのアナウンス等が定着しつつある様子である。今後も務めていきたい。
	0.0 (0)	2.8 (3)	8.3 (9)	21.1 (23)	25.7 (28)	29.4 (32)	10.1 (11)	1.8 (2)	0.9 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	1.8 (2)	5.5 (6)	11.0 (12)	15.6 (17)	33.0 (36)	21.1 (23)	10.1 (11)	[学生] no.1の「シラバス確認」は、新しいアンケート形式に変わって以降で、最も高い数値となった。別途学科質問で、「受講前からの興味の度合い」を訊いているが、そちらでのA評価も3.4ポイント上昇し、個別には新規開講科目が上がっており、学生が興味をもってシラバスを確認している傾向が見られる。一方、no.2「授業での積極性」の肯定評価は唯一大学全体の平均を下回ったが、学科内では前年度前期に比して微増している。いずれにせよこの項目については改善の要が認められ、個別または科会やアンケート等複数手段から学科共有を試みたい。なお、no.4「到達目標」については、AよりB評価の方が高い、またはA・B評価が拮抗している状況であったが、今回はAがBを約3ポイント上回った。この項目と連動する学科質問で、授業の難易度を訊ねているが、「適当である」に該当するA評価が初めて40%を上回り、難易度の内容「やや易しい」「やや難しい」に相当するBまたはCの回答率は、有効回答率の約60%を占めている。その一方で、「適当でない」との回答に相当するD評価も初めて1%を超え、「難しい」に相当するDも2.6%(有効回答率中8%)ながら過去最も高い数値となっている。いわゆる学生の二極化傾向もここには見られるか。
	8.3 (9)	23.9 (26)	35.8 (39)	17.4 (19)	11.0 (12)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.9 (1)	0.9 (1)	6.4 (7)	4.6 (5)	9.2 (10)	15.6 (17)	17.4 (19)	20.2 (22)	11.9 (13)	12.8 (14)	[授業[教え方等]] 前回同様、no.7-9の項目に関しては、肯定回答率はすべて大学平均を上回り、且つ否定回答率はそれを下回っていることである。肯定回答におけるA回答の占める率はすべて70%を超え、とりわけno.8「聞き取りやすさ」は77.4%と8割を目前にしている。当科のカリキュラムにおいては、実習系・スキル系科目が徐々に増えてきておりそれらの科目は概して高評価であることが判明しているが、no.7-9の肯定評価率100%の科目の中には文法や古典講読・文学史も含まれており、学生の中には比較的苦手な者も少なくないだろう分野科目であっても高い評価を得ていることが分かる。また、今期は「到達目標達成度」の肯定率も高まっており、学科の特性を踏まえた心強い結果が出ていると考える。
	11.9 (13)	14.7 (16)	20.2 (22)	24.8 (27)	22.0 (24)	3.7 (4)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.9 (1)	4.6 (5)	0.9 (1)	7.3 (8)	11.9 (13)	4.6 (5)	18.3 (20)	28.4 (31)	22.9 (25)	[環境・設備等] no.10、11ともに肯定評価が高まっている。参考図書については、実習系・スキル系科目においても必要とされていることが過去の結果から読み取れるが、確実に肯定評価が高まっていることからして、各授業でのアナウンス等が定着しつつある様子である。今後も務めていきたい。
	24.8 (27)	26.6 (29)	20.2 (22)	13.8 (15)	9.2 (10)	5.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	4.6 (5)	4.6 (5)	9.2 (10)	6.4 (7)	18.3 (20)	26.6 (29)	29.4 (32)	[環境・設備等] no.10、11ともに肯定評価が高まっている。参考図書については、実習系・スキル系科目においても必要とされていることが過去の結果から読み取れるが、確実に肯定評価が高まっていることからして、各授業でのアナウンス等が定着しつつある様子である。今後も務めていきたい。
	30.3 (33)	26.6 (29)	22.0 (24)	13.8 (15)	5.5 (6)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.9 (1)	0.0 (0)	3.7 (4)	0.9 (1)	8.3 (9)	12.8 (14)	11.0 (12)	20.2 (22)	28.4 (31)	13.8 (15)	[環境・設備等] no.10、11ともに肯定評価が高まっている。参考図書については、実習系・スキル系科目においても必要とされていることが過去の結果から読み取れるが、確実に肯定評価が高まっていることからして、各授業でのアナウンス等が定着しつつある様子である。今後も務めていきたい。
	12.8 (14)	27.5 (30)	26.6 (29)	21.1 (23)	9.2 (10)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.6 (5)	0.9 (1)	8.3 (9)	18.3 (20)	23.9 (26)	25.7 (28)	18.3 (20)	[環境・設備等] no.10、11ともに肯定評価が高まっている。参考図書については、実習系・スキル系科目においても必要とされていることが過去の結果から読み取れるが、確実に肯定評価が高まっていることからして、各授業でのアナウンス等が定着しつつある様子である。今後も務めていきたい。
	21.1 (23)	27.5 (30)	28.4 (31)	17.4 (19)	2.8 (3)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.4 (7)	10.1 (11)	20.2 (22)	28.4 (31)	22.9 (25)	7.3 (8)	4.6 (5)	[環境・設備等] no.10、11ともに肯定評価が高まっている。参考図書については、実習系・スキル系科目においても必要とされていることが過去の結果から読み取れるが、確実に肯定評価が高まっていることからして、各授業でのアナウンス等が定着しつつある様子である。今後も務めていきたい。
	6.4 (7)	12.8 (14)	31.2 (34)	30.3 (33)	14.7 (16)	3.7 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

前回は引き続き、学生の到達度においてはA評価がB評価を上回り、問題点の一つは解消されつつある。しかし、新たに「学生の積極性」をいかに引き出すか、という問題点が浮上しつつある。当科の学生の気質的なものを踏まえた上で、いかに学生に働きかけるかについては、検討・実践の必要がある。

なお、学科独自の質問に対しては、残念ながら無効回答率が却って増えている状況である。常勤・非常勤ともに、着実に回答を得るよう、呼びかけを強化したい。

4.今後の方針

肯定的回答率は高止まりしているが、数字はあくまで参考でしかない。また、それぞれの数値をアップすることが目的ではないことも明白である。結果を教員各自が吟味し、全体的な学生の傾向を新たに把握しなおすことで、改善点やアイデアを見出すことが、常々記すように最重要事項である。

各自が教授法を磨くとともに、公開授業を利用して有効なスキルを共有することを進めたい。また、学生の傾向・課題、それらに対するケアなど、細やかな情報共有も肝要である。常勤教員は科会等でこれまでどおり密に報告を行い、非常勤の先生方にはアンケートや機会ごとの聴取を怠らないよう、今後も詰めてゆく。

1.概評

前期開設科目のうち80科目でアンケートが実施された。全体集計結果より低い項目は2項目（問10、問11）であり、肯定的評価が全体を上回ったのは6項目（問1、問5、問6、問7、問8、問9）である。問2、問3、問4はほぼ全体平均値であった。よって全体的状況から見て、引き続き授業改善の効果が明らかに数値に現れていると思われる。ただ、環境と設備面での評価は、今期も全体より低い。引き続き、図書館へは文献設置の要望を積極的に行うとともに、学生には参考文献の検索や、研究方法に関する具体的な指導に力点を置きたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	7.5 (6)	36.3 (29)	32.5 (26)	15.0 (12)	2.5 (2)	6.3 (5)	[学生] シラバスを確認する項目で、前年度に引き続きポイントが平均を上回った。学生自身が履修登録方法を理解し、便覧およびシラバスの確認が重要であることの意識が高まったといえる。しかし必修科目では、選択の余地のない科目であることからか、ポイントが低い傾向にあるのではないかとと思われるが、ポイントが低い科目の傾向は判然とせず、その原因については引き続き注視していきたい。授業外の学習については、全体平均とあまり差はなく、その意味で徐々に改善している傾向が見られるが、引き続き能動的な姿勢を育み、学習意欲を高める工夫が必要であろう。
	3.8 (3)	7.5 (6)	23.8 (19)	37.5 (30)	23.8 (19)	3.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	5.0 (4)	5.0 (4)	21.3 (17)	21.3 (17)	17.5 (14)	15.0 (12)	10.0 (8)	5.0 (4)	
	5.0 (4)	6.3 (5)	21.3 (17)	25.0 (20)	18.8 (15)	21.3 (17)	2.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.3 (1)	1.3 (1)	7.5 (6)	15.0 (12)	13.8 (11)	25.0 (20)	17.5 (14)	11.3 (9)	7.5 (6)	
	7.5 (6)	12.5 (10)	25.0 (20)	27.5 (22)	23.8 (19)	1.3 (1)	2.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	3.8 (3)	10.0 (8)	18.8 (15)	18.8 (15)	27.5 (22)	12.5 (10)	7.5 (6)	1.3 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	7.5 (6)	18.8 (15)	25.0 (20)	33.8 (27)	15.0 (12)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	2.5 (2)	3.8 (3)	1.3 (1)	27.5 (22)	18.8 (15)	25.0 (20)	15.0 (12)	6.3 (5)	[授業[内容]] シラバスに記載された授業運営が行われたか、授業内容が理解できたか、いずれについての数値は全体平均を上回っており、全体的に教員の授業の進め方に改善が引き続き行われているものと評価したい。評価が低い科目の担当者には、学科から改善の方策について検討していただくよう申し入れる。
	3.8 (3)	16.3 (13)	27.5 (22)	30.0 (24)	15.0 (12)	7.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	2.5 (2)	3.8 (3)	7.5 (6)	8.8 (7)	23.8 (19)	18.8 (15)	16.3 (13)	10.0 (8)	8.8 (7)	
	7.5 (6)	10.0 (8)	17.5 (14)	31.3 (25)	26.3 (21)	7.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	2.5 (2)	1.3 (1)	2.5 (2)	8.8 (7)	16.3 (13)	18.8 (15)	20.0 (16)	16.3 (13)	13.8 (11)	[授業[教え方等]] 説明の明快さ、よく聞き取れたか、進め方が効果的か、についてはいずれも全体平均を上回り、教員の授業に対する取り組みや工夫が評価されたと考える。評価が低い科目の担当者については、引き続き学科から改善の方策について検討していただくよう申し入れる。
	12.5 (10)	15.0 (12)	31.3 (25)	21.3 (17)	17.5 (14)	1.3 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	2.5 (2)	1.3 (1)	2.5 (2)	2.5 (2)	13.8 (11)	21.3 (17)	17.5 (14)	20.0 (16)	18.8 (15)	
	16.3 (13)	23.8 (19)	23.8 (19)	25.0 (20)	10.0 (8)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	2.5 (2)	1.3 (1)	2.5 (2)	11.3 (9)	17.5 (14)	22.5 (18)	18.8 (15)	12.5 (10)	11.3 (9)	
	8.8 (7)	11.3 (9)	27.5 (22)	36.3 (29)	13.8 (11)	2.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	2.5 (2)	6.3 (5)	20.0 (16)	23.8 (19)	23.8 (19)	10.0 (8)	12.5 (10)	[環境・設備等] いずれの設問も全学的には下回っている。必修科目他、履修者多数の授業は、環境に関する評価が低い傾向にある。可能な限り適正な教室の確保に努め、履修者数の調整も視野に入れて対応したい。また、図書館へは必要な図書を教員・学生から要望する活動も継続するが、調査資料の検索方法や文献の用い方などの学習指導にも力点を置きたい。
	10.0 (8)	17.5 (14)	35.0 (28)	28.8 (23)	8.8 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.3 (1)	0.0 (0)	2.5 (2)	7.5 (6)	13.8 (11)	37.5 (30)	25.0 (20)	12.5 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	1.3 (1)	3.8 (3)	23.8 (19)	37.5 (30)	21.3 (17)	12.5 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

- ・参考書の充実については、各科目において論文検索や地域図書館の利用など、どのような文献を資料として用いるのか、文献の性格や検索の方法について指導を徹底したい。
- ・各学年の学科必修科目や資格にかかわる必修科目では、シラバスの事前確認や積極的な取り組み、授業の理解に対する評価が低く出る傾向がある。このことは、授業内容への興味を高めるために、担当者の工夫の余地はあると思われるが、学生の受け身になりがちな空気が周囲に影響する場合も大きいと考える。それは同じ担当者の他の科目においては良好な結果が出ていることから裏付けられる。学生には、必修科目の意義をしっかりと理解させるよう心掛けて、学習意欲や満足感が得られるよう取り組みたい。

4.今後の方針

評価の低い項目については学科で情報を共有し、より学生の学習意欲を高め、学習に対する満足度を上げられるよう取り組みたい。

1.概評
今回の回答集計では、Aの回答比率は全ての質問で全体集計結果を上回っていたが、A+Bの回答比率で全体集計結果を下回ったものがあった(問5,7,8)。その点を考慮すると、今学期の評価には改善の余地があると考えている。

2.各質問の評価とその考察
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (2)	6.3 (11)	6.3 (11)	17.8 (31)	14.4 (25)	19.5 (34)	20.1 (35)	14.4 (25)	[学生] Aの回答を見ると、問1(シラバス確認)で全体平均の11.9%、問2(授業内の積極的取組)で11.8%、問3(授業外学習)で12.5%、問4(到達目標達成)で15.0%上回っており、学生がしっかりと学習をし、到達目標に達成していたと自己評価していることがわかる。C+Dの否定的評価が全体平均を下回っていることから、真剣に取り組んでいないと自己評価する学生が少ないこともわかる。
	19.0 (33)	21.3 (37)	24.7 (43)	17.8 (31)	12.1 (21)	2.9 (5)	2.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (7)	5.2 (9)	17.8 (31)	13.2 (23)	19.0 (33)	20.7 (36)	20.1 (35)	
	18.4 (32)	27.0 (47)	18.4 (32)	13.8 (24)	16.1 (28)	5.2 (9)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (2)	3.4 (6)	9.2 (16)	16.7 (29)	25.9 (45)	23.0 (40)	20.7 (36)	
	21.8 (38)	28.7 (50)	25.3 (44)	14.4 (25)	6.3 (11)	2.9 (5)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.6 (1)	5.2 (9)	9.8 (17)	12.6 (22)	19.0 (33)	13.8 (24)	13.8 (24)	15.5 (27)	9.8 (17)	
	10.9 (19)	16.7 (29)	15.5 (27)	18.4 (32)	17.8 (31)	15.5 (27)	3.4 (6)	1.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.6 (1)	4.0 (7)	5.7 (10)	12.1 (21)	16.1 (28)	12.6 (22)	23.6 (41)	25.3 (44)	[授業[内容]] 問5(シラバス通りの授業)、問6(学生の内容理解)については、A評価が全体平均を上回っているが、問5のA+B評価両方が全体平均を0.1%ではあるが下回っている。また、問5のC+D評価も全体平均より0.3%悪い。特定科目で問5への評価が悪い傾向があるため、際立って低い担当教員と話し合うと共に、授業コーディネーターとも話し合う予定である。
	25.9 (45)	26.4 (46)	16.7 (29)	15.5 (27)	12.6 (22)	2.3 (4)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.1 (2)	5.7 (10)	5.2 (9)	5.2 (9)	13.8 (24)	11.5 (20)	14.4 (25)	21.8 (38)	21.3 (37)	
	23.6 (41)	20.1 (35)	23.0 (40)	14.4 (25)	13.8 (24)	2.3 (4)	2.9 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	2.9 (5)	5.2 (9)	7.5 (13)	4.0 (7)	5.2 (9)	10.3 (18)	12.1 (21)	17.8 (31)	35.1 (61)	[授業[教え方等]] 問7(教員の説明の明快さ)、問8(教員の話の聞き取りやすさ)、問9(授業進行の効果性)すべてでA評価が全体平均を上回っていたことはよかったと思われる。その一方で、問7、問8のA+B評価が全体平均を下回っていることと、問7、問8のD評価も全体平均より低い(それぞれ0.3%、0.2%)。英語科目を教えているという特性から、問7、問8で高評価をえるのは難しいと言えるが、特定科目で評価がそれほど高くない傾向がある。評価が際立って低い担当教員と話し合うと共に、授業コーディネーターとも話し合う予定である。
	33.3 (58)	23.0 (40)	13.8 (24)	14.9 (26)	10.3 (18)	2.9 (5)	1.1 (2)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	2.3 (4)	4.0 (7)	4.0 (7)	6.9 (12)	5.7 (10)	7.5 (13)	12.6 (22)	21.8 (38)	35.1 (61)	
	34.5 (60)	24.7 (43)	14.9 (26)	13.2 (23)	6.9 (12)	4.0 (7)	0.6 (1)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.1 (2)	0.6 (1)	6.9 (12)	5.7 (10)	6.9 (12)	8.6 (15)	7.5 (13)	13.8 (24)	18.4 (32)	30.5 (53)	
	29.9 (52)	23.6 (41)	14.9 (26)	13.2 (23)	10.9 (19)	4.6 (8)	2.9 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (2)	2.3 (4)	8.0 (14)	12.1 (21)	16.1 (28)	27.6 (48)	32.8 (57)	[環境・設備等] 学習環境、図書館の設問ともにA、A+Bの肯定的評価は全学平均を上回っており、学生は学習環境と設備について満足していることが伺える。
	39.1 (68)	23.6 (41)	16.7 (29)	13.2 (23)	4.6 (8)	2.9 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.6 (1)	2.9 (5)	10.3 (18)	17.2 (30)	16.7 (29)	20.1 (35)	16.7 (29)	15.5 (27)	
	18.4 (32)	20.7 (36)	23.0 (40)	16.7 (29)	13.8 (24)	6.3 (11)	1.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

[授業[教え方等]]の項目にも書いたが、英語科目を教えている学科でありながらも、教え方についてA評価が全体平均を上回っている点は評価できる。しかし一方で、特定科目でシラバスを変えたこともあってか、質問5, 6, 8のA+Bの評価で全学平均を下回ったことは懸念材料である。授業コーディネーターの指示の元、全学科で教育の質を上げていく必要がある。また、今後増加すると思われる認定留学希望者の力を伸ばすために、通常の授業で質の高い教育を提供できるよう、次年度に向けてシラバスの改訂なども行っていきたい。

4.今後の方針

平成28年度末に、今年度の授業の質を高めるために、非常勤教師連絡会を開催し、授業の教え方について情報共有を図るFD活動を行った。また、ボストン校との協働を強めるため、学科教員が9月に出張した際には日本の高等教育政策がボストン同様に成果物(outcome)ベースに移行していることなど情報提供し、今後の認定留学希望者に対応できるようカリキュラム連携の強化と、質の向上をお願いしている。東京キャンパスにおいては、今後も授業見学及び連絡会を開催することで、組織的に教育の質を高めていきたい。授業評価の低い教員とは協働的に問題点の分析、対策を考えていきたい。

1.概評

2017年度前期にひらいた134科目のアンケートをとり、累計3,164人の回答を得た。今年度から新学部となり入学定員が増えたが、累計回答者数が昨年同時期より減っているのは留学により世田谷キャンパス不在の学生数が増えているためと考えられる。

2.各質問の評価とその考察											
各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。											
（上段がA評価、下段がB評価）											
no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.7 (1)	0.7 (1)	6.7 (9)	7.5 (10)	19.4 (26)	27.6 (37)	17.2 (23)	11.2 (15)	6.0 (8)	3.0 (4)	【学生】 例年に比べ設問 1 のシラバス確認の肯定率が上昇しているのは授業に臨む学生の姿勢としては望ましい。また少しずつではあるが「AboutYourself」の設問の肯定率が上昇しているのは学生の意欲の表れとして評価できる。
	1.5 (2)	10.4 (14)	15.7 (21)	24.6 (33)	29.9 (40)	13.4 (18)	3.0 (4)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.7 (1)	0.7 (1)	2.2 (3)	8.2 (11)	17.2 (23)	17.2 (23)	21.6 (29)	17.2 (23)	10.4 (14)	4.5 (6)	
	4.5 (6)	8.2 (11)	19.4 (26)	25.4 (34)	17.2 (23)	22.4 (30)	0.7 (1)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.7 (1)	0.7 (1)	2.2 (3)	8.2 (11)	11.9 (16)	18.7 (25)	20.9 (28)	22.4 (30)	9.7 (13)	4.5 (6)	
	3.0 (4)	14.2 (19)	23.1 (31)	20.9 (28)	23.9 (32)	10.4 (14)	3.7 (5)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	
4	3.7 (5)	4.5 (6)	9.0 (12)	17.9 (24)	19.4 (26)	20.1 (27)	11.2 (15)	8.2 (11)	4.5 (6)	1.5 (2)	
	0.7 (1)	5.2 (7)	13.4 (18)	9.7 (13)	25.4 (34)	23.1 (31)	15.7 (21)	5.2 (7)	0.7 (1)	0.7 (1)	
5	0.7 (1)	3.0 (4)	0.7 (1)	3.0 (4)	6.7 (9)	22.4 (30)	19.4 (26)	23.1 (31)	14.9 (20)	6.0 (8)	【授業[内容]】 学生の姿勢が前向きなのに比べ、理解度についての設問6の肯定率が昨年と比較して少し減少しているのは一年生の数が増えたことによるものなのか。能動的な学習態度を指導していきたい。
	5.2 (7)	16.4 (22)	26.1 (35)	23.1 (31)	19.4 (26)	6.0 (8)	1.5 (2)	0.7 (1)	1.5 (2)	0.0 (0)	
6	1.5 (2)	1.5 (2)	6.0 (8)	11.2 (15)	6.7 (9)	18.7 (25)	15.7 (21)	20.1 (27)	11.9 (16)	6.7 (9)	
	7.5 (10)	10.4 (14)	24.6 (33)	21.6 (29)	22.4 (30)	9.7 (13)	1.5 (2)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.5 (2)	0.7 (1)	2.2 (3)	6.7 (9)	7.5 (10)	11.2 (15)	15.7 (21)	15.7 (21)	25.4 (34)	13.4 (18)	【授業[教え方等]】 前年同期と比較してほぼ横ばいといえるが、常にレベルの向上を目指していきたい。
	13.4 (18)	24.6 (33)	17.9 (24)	21.6 (29)	17.2 (23)	3.7 (5)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.7 (1)	0.7 (1)	3.0 (4)	4.5 (6)	7.5 (10)	11.2 (15)	15.7 (21)	19.4 (26)	20.1 (27)	17.2 (23)	
	16.4 (22)	23.1 (31)	20.9 (28)	21.6 (29)	11.9 (16)	3.7 (5)	1.5 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	2.2 (3)	0.7 (1)	4.5 (6)	6.0 (8)	7.5 (10)	14.2 (19)	17.2 (23)	15.7 (21)	20.9 (28)	11.2 (15)	
	12.7 (17)	21.6 (29)	17.9 (24)	24.6 (33)	14.2 (19)	6.0 (8)	1.5 (2)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.7 (5)	3.0 (4)	11.9 (16)	26.9 (36)	21.6 (29)	20.1 (27)	12.7 (17)	【環境・設備等】 学生による評価は悪くないが、国際学科が主に使用している3号館の教室環境は万全とは言えない。
	15.7 (21)	23.1 (31)	26.1 (35)	21.6 (29)	9.7 (13)	3.0 (4)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.7 (1)	2.2 (3)	9.7 (13)	17.2 (23)	26.1 (35)	20.1 (27)	14.9 (20)	7.5 (10)	1.5 (2)	
	3.7 (5)	9.7 (13)	23.1 (31)	23.9 (32)	20.9 (28)	14.9 (20)	1.5 (2)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

それぞれ目的地は違うが、半年～2年の留学という共通の目標に向かい、その基礎を作るために学生と教員が一丸となっている。学科で学生の自主学習をサポートするために学生に開放しているリソースルームの利用者も増えているようである。

4.今後の方針

新学部になってベトナム留学が始まり、さらにフランスとドイツへの留学もスタートしているので、その流れを軌道に乗せるよう、世田谷キャンパスでの教育を充実させていく。

1.概評

今回の報告書では73科目を対象とし、有効回答者数は1959名。総じて学生の肯定的評価は8割～9割超を維持しており、高い満足度を維持している。前期比ではほぼすべての項目で肯定的評価が上昇しており、学生の満足度が全体として改善したと評価できる。特に授業内容や教え方については、教員間で日常的に報告・相談・連絡が行われているため、そうした連携の効果が表れてきているものと思われる。

学科の特性上書籍資料が少ないのは、むしろ最新状況を学んでいることの証左でもあるが、それだけにデジタルコンテンツの閲覧やICTの活用について指導を強化していきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (1)	2.7 (2)	17.8 (13)	39.7 (29)	13.7 (10)	12.3 (9)	4.1 (3)	8.2 (6)	[学生] ①シラバスの閲覧、②講義の取り組み姿勢、③授業外学習、④講義到達目標、のいずれにおいても肯定的評価が9割を超えており、前年度よりも改善がみられる。 特にすべての設問において前年度よりもボリュームゾーンが上方にシフトしており、その改善幅も前期比で大きい。 今年度の新入生より、学科登録をやめ、学生自身で登録するよう転換したため、事前にシラバスを閲覧する習慣がついたことが何える。
	12.3 (9)	2.7 (2)	30.1 (22)	30.1 (22)	19.2 (14)	4.1 (3)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	2.7 (2)	11.0 (8)	15.1 (11)	20.5 (15)	23.3 (17)	12.3 (9)	5.5 (4)	9.6 (7)	
	9.6 (7)	8.2 (6)	12.3 (9)	26.0 (19)	28.8 (21)	11.0 (8)	4.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	1.4 (1)	0.0 (0)	1.4 (1)	5.5 (4)	15.1 (11)	26.0 (19)	23.3 (17)	11.0 (8)	5.5 (4)	11.0 (8)	
	12.3 (9)	8.2 (6)	15.1 (11)	34.2 (25)	21.9 (16)	4.1 (3)	4.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	4.1 (3)	6.8 (5)	23.3 (17)	30.1 (22)	12.3 (9)	9.6 (7)	5.5 (4)	2.7 (2)	5.5 (4)	
	6.8 (5)	2.7 (2)	5.5 (4)	17.8 (13)	20.5 (15)	32.9 (24)	11.0 (8)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (1)	0.0 (0)	8.2 (6)	27.4 (20)	26.0 (19)	16.4 (12)	12.3 (9)	8.2 (6)	[授業[内容]] ⑤シラバス記載内容の実質化、⑥授業内容の理解については、いずれも95%前後の肯定評価となっており、前期比でも7ポイント上方にシフトしていることから、授業内容についてはおおむね学生の満足を得ているものと思われる。 また、⑤シラバス記載内容については全学平均よりも高くなっていることから、授業進度が計画通りに進んでいることが何える。教員の努力と学生の受講態度の両方の効果と推測される。
	9.6 (7)	11.0 (8)	21.9 (16)	26.0 (19)	21.9 (16)	9.6 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.4 (1)	1.4 (1)	2.7 (2)	4.1 (3)	11.0 (8)	27.4 (20)	24.7 (18)	12.3 (9)	2.7 (2)	12.3 (9)	
	11.0 (8)	8.2 (6)	15.1 (11)	30.1 (22)	23.3 (17)	8.2 (6)	4.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	4.1 (3)	1.4 (1)	4.1 (3)	6.8 (5)	12.3 (9)	23.3 (17)	19.2 (14)	11.0 (8)	17.8 (13)	[授業[教え方等]] ⑦教員の説明、⑧聞き取りやすさ、⑨講義の進め方、のすべての項目で肯定評価が95%前後となっており、全学平均を上回った。 本学科では基礎ゼミや語学、ゼミなどにおいて教員間で指導法の整合、教材の情報共有が行われており、相互指導が進んでいる。また、前期比ですべてのボリュームゾーンが上方にシフトし、その伸び率も5から10ポイントと大きく増加した。 特に前期は中盤で、語学の習熟度別クラスごとの教授法の整合性について、教員間でピアレビューや事前・事後会議を行って点検を図ったことで、整合性のある語学指導に当たることができた。
	16.4 (12)	15.1 (11)	21.9 (16)	24.7 (18)	15.1 (11)	6.8 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	2.7 (2)	2.7 (2)	0.0 (0)	8.2 (6)	13.7 (10)	21.9 (16)	21.9 (16)	11.0 (8)	17.8 (13)	
	17.8 (13)	15.1 (11)	26.0 (19)	26.0 (19)	6.8 (5)	5.5 (4)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	2.7 (2)	2.7 (2)	4.1 (3)	9.6 (7)	9.6 (7)	32.9 (24)	13.7 (10)	8.2 (6)	16.4 (12)	
	16.4 (12)	11.0 (8)	16.4 (12)	39.7 (29)	6.8 (5)	6.8 (5)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.1 (3)	2.7 (2)	19.2 (14)	26.0 (19)	20.5 (15)	15.1 (11)	12.3 (9)	[環境・設備等] 環境・設備については大学全体の評価よりも若干低い。当学科では、プロジェクト学習（PBL）を導入していることから、参加型の科目が多く、標準的な教室の備品・設備では使いにくい場合がある。曜講の工夫や教室選択の面で対応していきたい。 ⑩参考書については、ボリュームゾーンが上方へシフト、前期比でも5から7ポイント上昇。学科の特性上、ビジネスの最前線を扱うため、DVDや動画、専門サイトなどのデジタル資料の使用頻度が高いことから学生へのデジタル資料指導を強化したい。
	13.7 (10)	19.2 (14)	32.9 (24)	17.8 (13)	16.4 (12)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	2.7 (2)	1.4 (1)	5.5 (4)	9.6 (7)	21.9 (16)	23.3 (17)	19.2 (14)	8.2 (6)	2.7 (2)	5.5 (4)	
	12.3 (9)	8.2 (6)	23.3 (17)	28.8 (21)	12.3 (9)	13.7 (10)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科独自の設問は設けていない。

4.今後の方針

- 1) 次学期より、ボストンから帰国直後の2年後期基礎ゼミを大きく改変し、3年次から始まるゼミ選択の指導に時間をかけ、キャリアプランを含めた将来設計を重視する。
- 2) 今学期より学寮における学科プログラムに統一の到達目標を設定し、それに叶う授業内容を実施しているが、次学期の学寮も同様に統一目標を明確に設定する。後期は1年2年合同学寮であるので、ボストンの振り返り(2年)と抱負(1年)、1-2年間でメンターリングを行う。
- 3) 1年次の基礎専門科目と2年次にボストンで学ぶコンテンツ科目との連携を充実させるため、1年基礎ゼミの留学準備教育において、英語による専門用語などの入門講義を行う。
- 4) 3年―4年のゼミにおいては卒論指導を加速させる。
- 5) 卒業要件チェックリストを各自に管理させたり、学科登録を極力避けることで、学生が自律的に卒業までの学習プランを立てられるようにする。
- 6) 次学期より1年英語において6クラス体制を復活させる。この状態をきちんと持続させるべく、英語教員の拡充を図る。

1.概評

いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均が90%を超える高い値を示し、学生の授業態度、教員の授業運営の双方が良好であることが確認できた。引き続き、学生の主体的な学びを促し、授業運営の改善に取り組んでいきたい。

2.各質問の評価とその考察											考察
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。											
（上段がA評価、下段がB評価）											
no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.5 (4)	28.1 (9)	25.0 (8)	28.1 (9)	6.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	[学生] いずれの設問も肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%以上で、ほとんどの学生が積極的に授業に参加し、授業外学習にも取り組んだことがわかる。ただし、授業外の学習（設問No.3）に関する評価は科目間で若干の評価のばらつきがみられ、各科目における授業外学習をさらに促していきたい。
	0.0 (0)	0.0 (0)	12.5 (4)	34.4 (11)	50.0 (16)	3.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (1)	21.9 (7)	34.4 (11)	18.8 (6)	12.5 (4)	6.3 (2)	3.1 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.1 (1)	6.3 (2)	21.9 (7)	25.0 (8)	37.5 (12)	6.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	9.4 (3)	15.6 (5)	12.5 (4)	15.6 (5)	12.5 (4)	21.9 (7)	12.5 (4)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	12.5 (4)	21.9 (7)	25.0 (8)	25.0 (8)	15.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	31.3 (10)	28.1 (9)	21.9 (7)	12.5 (4)	3.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (1)	
	3.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (1)	15.6 (5)	40.6 (13)	31.3 (10)	6.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.5 (4)	40.6 (13)	31.3 (10)	12.5 (4)	3.1 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.1 (1)	15.6 (5)	34.4 (11)	28.1 (9)	18.8 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (1)	25.0 (8)	15.6 (5)	28.1 (9)	18.8 (6)	6.3 (2)	3.1 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.1 (1)	9.4 (3)	25.0 (8)	28.1 (9)	31.3 (10)	3.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.3 (2)	9.4 (3)	18.8 (6)	31.3 (10)	21.9 (7)	9.4 (3)	3.1 (1)	
	9.4 (3)	3.1 (1)	28.1 (9)	37.5 (12)	21.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.3 (2)	0.0 (0)	25.0 (8)	25.0 (8)	31.3 (10)	9.4 (3)	3.1 (1)	
	3.1 (1)	12.5 (4)	43.8 (14)	25.0 (8)	15.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.3 (2)	12.5 (4)	31.3 (10)	28.1 (9)	15.6 (5)	6.3 (2)	0.0 (0)	
	3.1 (1)	9.4 (3)	15.6 (5)	43.8 (14)	28.1 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (1)	12.5 (4)	25.0 (8)	37.5 (12)	12.5 (4)	9.4 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	15.6 (5)	25.0 (8)	43.8 (14)	12.5 (4)	3.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	6.3 (2)	12.5 (4)	34.4 (11)	34.4 (11)	12.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (1)	25.0 (8)	46.9 (15)	21.9 (7)	3.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

昨年同様、必修科目群(6科目)と選択科目群(16科目)について肯定的評価の割合の比較を行った。昨年度は「授業理解」(No.6)や「到達目標」(No.4)の項目において、必修科目群での評価が低い傾向がみられたが、本年度は両群に差がみられず、必修科目群においても高い評価が得られた。これは、本年度より必修の実験実習科目である「心理基礎実験」や「データ解析実習」において担当教員を増員し、より少人数での授業運営を行ったことによるものと考ええる。

一方で、必修科目では「聞き取りやすさ」(No.8)「説明の明快さ」(No.7)「進め方」(No.9)の項目において若干評価が低い傾向がみられた。必修科目では履修生の関心や基礎学力に個人差が大きいために授業運営が難しい面があるが、さらなる改善を検討していきたい。

4.今後の方針

科目による差は若干みられるものの、全体として学生による授業の評価は非常に高いことが確認できた。一方で基礎学力の個人差に対応するため、今後もTA制度などを活用した対応を検討していきたい。

1.概評

昨年度同様、本学科の肯定的な評価の割合はほとんどの項目において全体平均を上回っている。問 1～問 3（学生に関する項目）においては、平成28年度前期と比較し、肯定的な評価の割合が上昇しており、学生の授業参加および授業外での学習がスムーズに行われていることが分かる。一方で、授業内容や進め方、教員の説明の仕方、授業環境の整備等においては学生からの具体的な要望が出ているため、教員間でこれらの情報を共有し、改善策を検討していく。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (4)	6.8 (6)	10.2 (9)	19.3 (17)	20.5 (18)	17.0 (15)	13.6 (12)	8.0 (7)	【学生】 肯定的評価は、前年度同期に比べ、問 1（シラバスの確認）が2.3ポイント、問 3（授業外での学習）が1.6ポイント上昇している。 問 1 から問 3 までの学生に関する項目が高い評価を得ていることから、学生の主体的な学習姿勢が定着していると考えられる。1 年～2 年次において、学科必修科目としてプロジェクト型学習を取り入れていることや、国家資格指定科目における実習・演習系の科目の取り組み、各講義科目の課題設定等が良い学習効果につながっていると考えられる。 問 4（到達目標の達成度）の肯定的評価においては、全体平均を上回ってはいるものの、昨年度より0.3ポイント低下した95.3%であった。到達目標については、教員と学生間で認識の差が生じることもあるため、授業内で具体的な目標を示し、学生の達成度を高めていく工夫が求められる。
	8.0 (7)	14.8 (13)	22.7 (20)	23.9 (21)	15.9 (14)	10.2 (9)	2.3 (2)	1.1 (1)	1.1 (1)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.1 (1)	2.3 (2)	8.0 (7)	11.4 (10)	13.6 (12)	19.3 (17)	12.5 (11)	22.7 (20)	9.1 (8)	
	9.1 (8)	21.6 (19)	12.5 (11)	20.5 (18)	15.9 (14)	17.0 (15)	3.4 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	2.3 (2)	4.5 (4)	4.5 (4)	11.4 (10)	14.8 (13)	30.7 (27)	18.2 (16)	13.6 (12)	
	12.5 (11)	20.5 (18)	30.7 (27)	18.2 (16)	9.1 (8)	8.0 (7)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.1 (1)	0.0 (0)	8.0 (7)	20.5 (18)	17.0 (15)	17.0 (15)	10.2 (9)	12.5 (11)	10.2 (9)	3.4 (3)	
	2.3 (2)	12.5 (11)	13.6 (12)	12.5 (11)	12.5 (11)	33.0 (29)	11.4 (10)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	1.1 (1)	0.0 (0)	2.3 (2)	0.0 (0)	6.8 (6)	19.3 (17)	20.5 (18)	18.2 (16)	14.8 (13)	17.0 (15)	【授業[内容]】 教員の授業運営については、シラバスに記載された内容で進めているとの評価が昨年度同様、高い評価であった。一方で、問6（授業内容の理解）については、全体に比べると高い評価（94.5%）ではあるものの、前年度に比べ、0.5ポイント低くなっている。今年度新たに開講した科目の難易度等が影響していると考えられる。今後は開講期に達した科目の授業内容を明確に示しつつ、学生の授業理解度を考慮した授業展開の工夫が求められる。
	15.9 (14)	17.0 (15)	17.0 (15)	28.4 (25)	10.2 (9)	11.4 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	2.3 (2)	1.1 (1)	3.4 (3)	6.8 (6)	10.2 (9)	19.3 (17)	13.6 (12)	20.5 (18)	10.2 (9)	12.5 (11)	
	11.4 (10)	15.9 (14)	19.3 (17)	21.6 (19)	15.9 (14)	13.6 (12)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	2.3 (2)	1.1 (1)	1.1 (1)	8.0 (7)	10.2 (9)	4.5 (4)	20.5 (18)	9.1 (8)	25.0 (22)	18.2 (16)	【授業[教え方等]】 授業の教え方等については、前年度に比べて肯定的評価の割合が下がってはいるものの全体平均を上回っており、問7（教員の説明の明快さ）が94.7%、問8（教員の話の聞き取りやすさ）が95.6%、問9（授業の進め方）が93.6%となっている。 国家資格取得に必要な知識の教授とともに、各授業の展開において学生の興味や意欲を引き出すための工夫が求められる。学科の非常勤講師懇談科会等で、授業の進め方に関する情報を共有しているが、資格ごとの授業展開のあり方や課題について、さらに具体的な検討を行っていく必要がある。
	19.3 (17)	21.6 (19)	14.8 (13)	23.9 (21)	11.4 (10)	9.1 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.1 (1)	1.1 (1)	1.1 (1)	3.4 (3)	11.4 (10)	12.5 (11)	15.9 (14)	12.5 (11)	18.2 (16)	22.7 (20)	
	21.6 (19)	19.3 (17)	18.2 (16)	18.2 (16)	15.9 (14)	6.8 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	2.3 (2)	1.1 (1)	0.0 (0)	9.1 (8)	9.1 (8)	12.5 (11)	11.4 (10)	19.3 (17)	17.0 (15)	18.2 (16)	
	17.0 (15)	21.6 (19)	19.3 (17)	19.3 (17)	14.8 (13)	8.0 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	4.5 (4)	2.3 (2)	13.6 (12)	17.0 (15)	18.2 (16)	26.1 (23)	17.0 (15)	【環境・設備等】 問10（授業環境）の肯定的評価（95.3%）は全体に比べて0.1%低い。受講生が確定した時点で教員から教室変更依頼を受けて調整を行う場合もあるなど、一定の授業環境は保たれていると考えるが、今後、さらに受講者人数を見込んだ授業環境の確保に努めていく。問11（参考書）の肯定的評価率は昨年度と同水準の95.4%で、全体に比べると例年通りの高評価である。図書館や資料室での配置だけでなく、同時に学生がこれらの資料を実際に活用できるよう課題設定するなど授業内での周知を図っていく。
	20.5 (18)	22.7 (20)	23.9 (21)	28.4 (25)	4.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	3.4 (3)	12.5 (11)	30.7 (27)	15.9 (14)	15.9 (14)	11.4 (10)	9.1 (8)	
	10.2 (9)	12.5 (11)	18.2 (16)	20.5 (18)	28.4 (25)	10.2 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

例年、少人数授業の実習・演習系授業の肯定的評価の割合は100%に近いが、今年度は講義系科目においても肯定率が上昇している。今年度は保育系の科目群において授業改善がみられたが、資格系の科目群においては、専任教員のマネジメントの効果が期待できる。学科の資格養成に関する方針を各授業担当教員(非常勤を含む)に周知し、効果的な授業運営に関する助言を行うことも必要と考える。

国家試験受験に向けた実践力を養う科目である「社会福祉総合講座」は、「授業外での学習」に関する項目において前年度と比較し、肯定的評価が7.9ポイント上昇した。科目の特性上、授業外での学習について今後も継続して促していくことで実践力向上(合格率向上)につなげていきたい。一方で、「授業の進め方」に関する肯定的評価は昨年度に比べて4.6ポイント低下している。オムニバス授業のメリットを活かしつつ、学生の学習意欲を高めていけるような授業内容の改善が必要と考える。

4.今後の方針

本年度より新たに開講した語学系及び医学系科目においては、授業の難易度を指摘する声が多かった。分かりやすい授業を展開することと国家試験に確実に合格するために難易度を調整する(授業外学習を含む)ことの両立が求められる。学生の中には少し難しい内容が出ただけで、すぐに苦手意識を持ってしまう傾向も見受けられる。今後の国家試験の合格率を高めるためにも、授業の難易度を調整しながら、理解度を高めていけるような対策を低学年から取り組んでいく必要があると考える。

また、昨年度に比べ肯定的評価が低かった「授業の進め方」に関する項目については、例えば、評価の高い授業の進め方を教員間で共有するなど、学科内FDの活用を検討していく。

自由記述からは、必修科目において、学科の教育方針を問う声があった。新カリキュラムの導入により今年度開設された必修科目の評価が低い傾向であったことから、学科として強化していく必修科目のあり方を検討するとともに、福祉社会学科ならではの学びや必修科目の位置づけや特性について、学生一人ひとりが理解し、スムーズに学習を展開できるよう、教務ガイダンス等で周知をしていく。

1.概評

前期開設科目115科目、回答者数4,018人のアンケート結果である。いずれの設問においても、肯定的評価（A＋B）の割合の平均が93%以上（93.2%～97.4%）と高い値を示し、学生の学習態度、教員の授業運営ともに良好であることが確認できた。

ソーシャル・スタディーズ、メディア・スタディーズ、グローバル・スタディーズの3つのスタディーズでの学びの体系とともに入門科目群、全般科目群、基礎科目群、展開科目群、スキル科目群、卒業論文・演習、PBL科目群等のカリキュラム体系が学生に周知されてきた。スタディーズごとに授業公開やオープンセミナーを実施し、授業後に教員間でディスカッションを行い、お互いの授業の関係性や方向性を確認し合っている。常勤教員の担当科目だけでなく、非常勤教員にも依頼し、実施している。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	8.2 (9)	14.5 (16)	24.5 (27)	27.3 (30)	13.6 (15)	5.5 (6)	4.5 (5)	[学生] 肯定的評価（A＋B）の割合の平均は、シラバスによる事前確認（no.1）が94%、授業への積極的取り組み（no.2）が96%、授業外での学習（no.3）は95%、シラバスの「到達目標」の達成（no.4）は94%と、いずれの設問も高い評価を示した。シラバスによる事前については、前年度を1.9ポイント上回った。一方、授業外での学習は前年度を0.4ポイント下回った。授業外での学習時間を増やすことは、授業内容の理解を高めることに繋がるため、学生には、予習、復習、課題等授業外での積極的な学習を促していきたい。
	5.5 (6)	9.1 (10)	20.9 (23)	25.5 (28)	30.0 (33)	7.3 (8)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	2.7 (3)	9.1 (10)	15.5 (17)	14.5 (16)	25.5 (28)	20.9 (23)	7.3 (8)	4.5 (5)	
	4.5 (5)	10.0 (11)	21.8 (24)	28.2 (31)	17.3 (19)	14.5 (16)	2.7 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (4)	10.0 (11)	9.1 (10)	11.8 (13)	17.3 (19)	21.8 (24)	16.4 (18)	10.0 (11)	
	10.9 (12)	17.3 (19)	24.5 (27)	19.1 (21)	19.1 (21)	9.1 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	4.5 (5)	14.5 (16)	11.8 (13)	20.9 (23)	18.2 (20)	15.5 (17)	7.3 (8)	6.4 (7)	0.9 (1)	
	0.9 (1)	6.4 (7)	6.4 (7)	22.7 (25)	22.7 (25)	22.7 (25)	13.6 (15)	4.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (4)	8.2 (9)	15.5 (17)	19.1 (21)	20.0 (22)	20.9 (23)	12.7 (14)	[授業[内容]] 肯定的評価（A＋B）の割合の平均は、「授業はシラバスに記載された内容で行われたか」(no.5)は97%、「授業内容の理解」(no.6)は93%であった。昨年度に比べ、0.2ポイント減少したものの、高評価といえる。基礎ゼミとして開講している「現代教養入門」は、担当教員間でディスカッションをし、シラバスの内容も充実してきた。卒業論文の成果へつなげるように、スタディーズごとに教員間で連携をとっている。今後は、スタディーズの領域を超えた科目間の連携も検討していきたい。
	13.6 (15)	18.2 (20)	25.5 (28)	25.5 (28)	10.0 (11)	6.4 (7)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.8 (2)	8.2 (9)	9.1 (10)	12.7 (14)	18.2 (20)	12.7 (14)	20.0 (22)	10.9 (12)	6.4 (7)	[授業[教方等]] 肯定的評価（A＋B）の割合の平均は、「教員の説明の明快さ」(no.7)は94%、「教員の話が良く聞き取れたか」(no.8)は95%で、昨年度に比べ、0.3ポイント減少した。「授業の進め方は内容等を理解するうえで効果的であったか」(no.9)は94%で昨年度と同様の結果であった。これら教方等について詳細をみると、評価に多少ばらつきが見られる。これは、授業のタイプによっては、Power Pointや映像等の教材の使用の有無や、配付資料の量の差があると思われる、その差が評価に違いを生んでいるとも考えられる。少人数の授業は教員の話は良く聞き取れており、内容の理解につながっている。授業外で質問を受ける等の個別対応も肯定的な評価に影響していると考えられる。
	6.4 (7)	9.1 (10)	26.4 (29)	21.8 (24)	20.0 (22)	14.5 (16)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.9 (1)	5.5 (6)	9.1 (10)	8.2 (9)	12.7 (14)	11.8 (13)	15.5 (17)	23.6 (26)	12.7 (14)	
	12.7 (14)	21.8 (24)	24.5 (27)	17.3 (19)	18.2 (20)	2.7 (3)	1.8 (2)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (4)	6.4 (7)	4.5 (5)	14.5 (16)	15.5 (17)	16.4 (18)	22.7 (25)	16.4 (18)	
	15.5 (17)	23.6 (26)	22.7 (25)	18.2 (20)	16.4 (18)	2.7 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	2.7 (3)	4.5 (5)	6.4 (7)	10.9 (12)	19.1 (21)	11.8 (13)	13.6 (15)	20.9 (23)	10.0 (11)	
	10.9 (12)	19.1 (21)	19.1 (21)	28.2 (31)	10.9 (12)	10.0 (11)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (4)	4.5 (5)	9.1 (10)	16.4 (18)	31.8 (35)	19.1 (21)	15.5 (17)	[環境・設備等] 学習環境については、肯定的評価（A＋B）の割合の平均は、「人数、部屋の広さ」(no.10)は96%で昨年度に比べ0.1ポイントではあるが増加した。「参考書が図書館に揃っているか」(no.11)は94%と、昨年度に比べ、0.2ポイント減少した。学習環境について、評価の割合ごとの科目数の割合をみると、多少ばらつきがみられる。一部授業内容に即した適切な教室を使用できていないことによると思われる。
	14.5 (16)	25.5 (28)	37.3 (41)	14.5 (16)	6.4 (7)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.9 (1)	0.9 (1)	2.7 (3)	15.5 (17)	20.9 (23)	25.5 (28)	20.9 (23)	7.3 (8)	5.5 (6)	
	7.3 (8)	11.8 (13)	25.5 (28)	25.5 (28)	20.0 (22)	8.2 (9)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

現代教養学科では、参加型の授業を強化するための授業内容・方法を教員間で検討しているが、それに対応した教室が不足している。この点が学生の学習環境の評価のばらつきに表れていると考える。また、学生自身が授業にどれだけ興味を持って積極的に取り組めるか、ということが一つ一つの授業の評価にも繋がっていくと思われる。受け身ではなく、自主的な授業参加を促すような授業運営について、学科でも引き続き話し合っていきたい。

4.今後の方針

受講人数の多い少ないや、必修か選択か、講義か演習か等でも授業に対する学生のモチベーションには違いが見られる。参考書の充実度に対する評価の向上は、図書館と連携して参考書の充実に努めた結果である。今期は、図書館からの連絡を受け、いくつかのゼミで書店を訪問する「選書ツアー」に参加した。卒業論文執筆に向けて学生からも好評であったため、今後も引き続きこのような企画には積極的に参加し、社会科学系の図書のさらなる充実を図っていきたい。

1.概評

すべての項目について、肯定的評価がほぼ9割5分以上と非常に高く、天井うちになっている状況である。唯一、質問1の「シラバスで授業内容を確認したか」という項目が92%なので、引き続き履修指導でシラバスの確認を徹底したい。教員側がシラバス通りに授業を行うという点については、かなり定着してきたことがみてとれる。これまで指摘の多かった環境・設備に関しても、長年の懸念事項であったロッカーを教室外に出せたことで高評価となった。各教員に対する評価もほぼ高評価を得ているが、今後もこの結果に甘んじることなく、さらなる授業改善を心がけたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	1.0 (1)	1.0 (1)	9.3 (9)	18.6 (18)	11.3 (11)	22.7 (22)	19.6 (19)	8.2 (8)	8.2 (8)	0.0 (0)	[学生] 全体的に肯定的評価（とくにA)の割合が高い結果となっている。ただし、「授業に積極的に取り組んだか」「授業外で学習をしたか」という項目について、肯定的評価が9割5分以上と高い結果を得ているものの、その割合は前年度に比べて漸減してきており、学生の自主性が重要視されている今、何らかの手を打たなければならない。教員側は学生の自主性を伸ばすような授業展開を心掛け、到達目標を明確にし、学習への動機づけをより高める努力をしたい。
	1.0 (1)	7.2 (7)	16.5 (16)	17.5 (17)	29.9 (29)	18.6 (18)	9.3 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.0 (1)	2.1 (2)	7.2 (7)	8.2 (8)	22.7 (22)	21.6 (21)	19.6 (19)	12.4 (12)	5.2 (5)	
	5.2 (5)	14.4 (14)	18.6 (18)	25.8 (25)	20.6 (20)	13.4 (13)	1.0 (1)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	8.2 (8)	1.0 (1)	10.3 (10)	22.7 (22)	21.6 (21)	12.4 (12)	16.5 (16)	7.2 (7)	
	9.3 (9)	13.4 (13)	17.5 (17)	27.8 (27)	20.6 (20)	8.2 (8)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.0 (1)	3.1 (3)	8.2 (8)	12.4 (12)	20.6 (20)	23.7 (23)	14.4 (14)	9.3 (9)	6.2 (6)	1.0 (1)	
	1.0 (1)	6.2 (6)	10.3 (10)	19.6 (19)	21.6 (21)	18.6 (18)	16.5 (16)	6.2 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.0 (1)	1.0 (1)	5.2 (5)	11.3 (11)	14.4 (14)	29.9 (29)	20.6 (20)	9.3 (9)	7.2 (7)	[授業[内容]] すべての項目において、高い割合で肯定的評価を得ており、また例年にくらべて漸増していることから、各教員による授業改善の取り組みが成果を上げているといえる。引き続き、授業内容とシラバスの整合性をこころがけ、学生の内容理解を促進するよう心掛けたい。
	6.2 (6)	9.3 (9)	25.8 (25)	29.9 (29)	12.4 (12)	15.5 (15)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.0 (1)	2.1 (2)	7.2 (7)	13.4 (13)	16.5 (16)	21.6 (21)	19.6 (19)	11.3 (11)	7.2 (7)	
	7.2 (7)	14.4 (14)	18.6 (18)	26.8 (26)	15.5 (15)	14.4 (14)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.0 (1)	4.1 (4)	8.2 (8)	7.2 (7)	7.2 (7)	18.6 (18)	23.7 (23)	19.6 (19)	10.3 (10)	[授業[教え方等]] 授業の教え方についても、すべての項目において肯定的評価、とくにA評価の割合が非常に高い。また例年よりもすべての項目で漸増しており、各教員が適切に授業改善に取り組んでいることがうかがえる。ただし、多くの教員が同内容の授業にもかかわらず、クラスによる評価にばらつきがあると報告しており、教員側のみの力量の問題ではなく、学生側のモチベーションの違いやクラスの雰囲気によるところも大きいと思われる。
	11.3 (11)	21.6 (21)	27.8 (27)	17.5 (17)	10.3 (10)	8.2 (8)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	4.1 (4)	6.2 (6)	9.3 (9)	8.2 (8)	15.5 (15)	20.6 (20)	24.7 (24)	11.3 (11)	
	13.4 (13)	21.6 (21)	27.8 (27)	13.4 (13)	18.6 (18)	3.1 (3)	2.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.0 (1)	0.0 (0)	1.0 (1)	11.3 (11)	6.2 (6)	11.3 (11)	20.6 (20)	22.7 (22)	15.5 (15)	10.3 (10)	
	10.3 (10)	18.6 (18)	24.7 (24)	24.7 (24)	12.4 (12)	5.2 (5)	3.1 (3)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	2.1 (2)	12.4 (12)	12.4 (12)	25.8 (25)	21.6 (21)	14.4 (14)	10.3 (10)	[環境・設備等] 教室からロッカーを出せたことから教室の広さに関して若干改善されたが、定員増による手狭さは相変わらずで何とかしたいところである。また、その評価が結果にも表れた。またICTを取り入れたアクティブラーニング等の充実を考えると、自由度の高い学習環境は必須であり、引き続き環境改善に取り組んでいただけるようお願いしたい。
	11.3 (11)	16.5 (16)	33.0 (32)	22.7 (22)	10.3 (10)	6.2 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (3)	8.2 (8)	19.6 (19)	21.6 (21)	23.7 (23)	13.4 (13)	7.2 (7)	3.1 (3)	
	4.1 (4)	9.3 (9)	19.6 (19)	24.7 (24)	24.7 (24)	14.4 (14)	2.1 (2)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教員養成学科という特性もあり、教員の授業改善に対する意識や意欲は高く、すべての項目においてほぼ天井うち状態が続いている。免許状および資格取得のため履修する科目がほぼ決まっていたこともあり、学生側がシラバスを確認して自主的に授業科目を選択するという姿勢がつきにくい状況であったが、ここ数年、限られた選択科目でも学生自身の意思によって履修するという指導を心掛けてきた結果、かなり自己責任において履修登録するという意識が上がってきたと思われる。

4.今後の方針

継続的な授業改善の成果として、学生の授業に対する主体的取り組みや、積極的姿勢が高評価で維持されていることは評価に値する。これまで同様、学科内での授業公開および協議会を積極的におこない、教員間の授業改善に対する意識を向上させ、授業の質的改善を引き続き図りたい。

1.概評

おおむね傾向は旧来通りであると考えられる。なおいくつかの設問（特に授業[教え方]）に対しては、若干の評価の上昇が確認され、こうした科目での改善項目を学科でも共有する事で、さらなる授業内容の向上に努めていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.7 (1)	2.8 (4)	12.7 (18)	23.9 (34)	24.6 (35)	20.4 (29)	11.3 (16)	3.5 (5)	[学生] A+Bの評価率(%)は、H29前期／H28前期において設問 1 (96.9/95.3)、設問2(96.7/96.3)、設問3(96.4/96.7)、設問4(94.4/94.2)と概ね微増となっている。但し授業外での学習に関する設問3に関しては0.3ポイントの減少となっている。 これより学生への授業内容の周知等に関しては、学科で行うガイダンス、初回授業での説明等により、概ね良く伝達されているものと考えるが、授業外学習に関しては、各授業内で課題量を調整するなどし、より一層の学習時間の確保に努めたい。
	5.6 (8)	11.3 (16)	20.4 (29)	33.1 (47)	17.6 (25)	10.6 (15)	1.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.7 (1)	4.2 (6)	8.5 (12)	19.0 (27)	18.3 (26)	16.2 (23)	15.5 (22)	9.2 (13)	8.5 (12)	
	9.2 (13)	9.9 (14)	17.6 (25)	14.8 (21)	28.2 (40)	11.3 (16)	7.7 (11)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.7 (1)	6.3 (9)	10.6 (15)	16.2 (23)	21.1 (30)	21.1 (30)	16.9 (24)	7.0 (10)	
	7.7 (11)	16.9 (24)	28.2 (40)	20.4 (29)	16.2 (23)	7.0 (10)	3.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.7 (1)	2.8 (4)	7.0 (10)	19.7 (28)	19.0 (27)	17.6 (25)	19.7 (28)	10.6 (15)	2.1 (3)	0.7 (1)	
	0.7 (1)	4.9 (7)	12.0 (17)	18.3 (26)	23.9 (34)	27.5 (39)	12.0 (17)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	6.3 (9)	12.0 (17)	16.9 (24)	27.5 (39)	19.0 (27)	10.6 (15)	7.0 (10)	[授業[内容]] A+Bの評価率(%)は、H29前期／H28前期において設問 5(96.6/96.0)、設問6(93.1/92.5)といずれも微増の結果となった。これより昨年度同様、各教員にはなお一層の授業内容の明確化、伝達方法の工夫をお願いし、更なる授業内容の向上に努めたい。
	7.7 (11)	9.2 (13)	23.9 (34)	31.7 (45)	14.1 (20)	9.9 (14)	3.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.7 (1)	3.5 (5)	4.2 (6)	9.9 (14)	19.7 (28)	16.9 (24)	14.8 (21)	14.8 (21)	7.7 (11)	7.7 (11)	
	7.7 (11)	8.5 (12)	19.0 (27)	20.4 (29)	24.6 (35)	14.1 (20)	5.6 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.7 (1)	2.8 (4)	2.8 (4)	9.2 (13)	10.6 (15)	12.7 (18)	23.2 (33)	16.9 (24)	11.3 (16)	9.9 (14)	[授業[教え方等]] A+Bの評価率(%)は、H29前期／H28前期において設問7(93.8/92.4)、設問8(94.3/93.0)、設問9(93.0/92.0)と各設問ともに1ポイント以上の増となった。 これより教員の努力はもちろん、継続的な授業公開等の成果が表れているものと考え、引き続きさらなる授業運営の工夫に努めたい。
	9.9 (14)	13.4 (19)	21.8 (31)	28.2 (40)	13.4 (19)	9.9 (14)	2.8 (4)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	4.2 (6)	1.4 (2)	6.3 (9)	16.2 (23)	12.7 (18)	15.5 (22)	23.2 (33)	7.0 (10)	13.4 (19)	
	13.4 (19)	7.7 (11)	28.2 (40)	20.4 (29)	17.6 (25)	9.2 (13)	3.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.7 (1)	2.1 (3)	5.6 (8)	9.2 (13)	9.2 (13)	17.6 (25)	21.8 (31)	16.2 (23)	8.5 (12)	9.2 (13)	
	9.9 (14)	9.9 (14)	21.8 (31)	27.5 (39)	15.5 (22)	11.3 (16)	3.5 (5)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (2)	5.6 (8)	15.5 (22)	13.4 (19)	18.3 (26)	24.6 (35)	14.8 (21)	6.3 (9)	[環境・設備等] A+Bの評価率(%)は、H29前期／H28前期において設問10(94.8/95.2)と微減、設問11(89.6/86.7)と3ポイントほどの増となった。 特に設問10の学習環境に関しては、教室に対する学生数の過密状況が具体的コメントとしても記載されており、開設科目の履講調整ならびに開設コマ数の調整などにより、状況改善に努めたい。
	10.6 (15)	15.5 (22)	30.3 (43)	19.7 (28)	12.7 (18)	8.5 (12)	2.1 (3)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.7 (1)	6.3 (9)	16.2 (23)	22.5 (32)	20.4 (29)	19.0 (27)	12.7 (18)	1.4 (2)	0.7 (1)	
	4.9 (7)	3.5 (5)	16.9 (24)	28.9 (41)	25.4 (36)	17.6 (25)	2.1 (3)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科では、入試において理数系科目を選択せずにも入学できるシステムをとっており、このため入学生の中には高校において理数系科目をほとんど履修せずに入学してきた学生も少なくない。しかし一方で学科カリキュラムにおいては最低限の理数系科目の知識を必要とするものが少なからず存在しており、これら関連科目に関する評価が、他の演習科目などに比べ傾向として低評価となっている。この傾向自体は例年通りであるものの、一部の科目において特に評価が低い科目が散見されたため、これらに関しては何らかの対策を行っていきたい。なおこうした科目の中にも学生によってはその指導に謝意を述べるコメントも散見されており、このあたり、関連科目の教員同士、指導方法等に関して議論する場を持ち、よりわかりやすい授業運営のための工夫を行っていきたい。

4.今後の方針

昨年度に引き続き、学科カリキュラムの中心である演習科目と、それらを補足し、より発展させるために必要な講義科目の学習バランスに関して、偏りが生じないようにクラスアドバイザー等による履修指導を徹底したい。また授業時間外での自宅学習の有用性について説明し、講義科目の習熟度を向上させる取り組みを徹底したい。

1.概評

前学期と比較すると若干ポイントを下げているが、全体的には高得点であった。学生たちは管理栄養士免許取得を目的としていることから、学習意欲は高いと思われる。一方、アクティブラーニングやITを利用した授業展開も多くなってきたが、まだまだ積極性に欠ける部分も見受けられる。今後もより一層、自ら積極的に学ぶ姿勢を養うことができるような取り組みや授業展開が必要と考える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	1.4 (1)	4.3 (3)	24.6 (17)	36.2 (25)	18.8 (13)	11.6 (8)	1.4 (1)	0.0 (0)	1.4 (1)	0.0 (0)	[学生] 管理栄養学科開設科目は、国家試験受験のための必修科目が多くを占めていることから、授業に臨む姿勢は全体的に高い評価である。しかしシラバスの確認は、例年どおり数値が改善されていない。引き続き、事前にシラバス確認と準備をするよう指導していく必要がある。授業外学習、到達目標に関しては、講義だけでなく実験・実習も多いことから、学生同士で討議しながら課題等に取り組み姿勢がみられたことから高く評価できる。
	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (1)	5.8 (4)	36.2 (25)	43.5 (30)	13.0 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	1.4 (1)	4.3 (3)	14.5 (10)	17.4 (12)	15.9 (11)	26.1 (18)	8.7 (6)	5.8 (4)	4.3 (3)	1.4 (1)	
	0.0 (0)	5.8 (4)	7.2 (5)	13.0 (9)	23.2 (16)	23.2 (16)	18.8 (13)	8.7 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	2.9 (2)	8.7 (6)	14.5 (10)	14.5 (10)	11.6 (8)	20.3 (14)	11.6 (8)	8.7 (6)	4.3 (3)	2.9 (2)	
	1.4 (1)	5.8 (4)	7.2 (5)	17.4 (12)	29.0 (20)	21.7 (15)	13.0 (9)	4.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	11.6 (8)	11.6 (8)	21.7 (15)	20.3 (14)	17.4 (12)	11.6 (8)	4.3 (3)	0.0 (0)	1.4 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (1)	4.3 (3)	15.9 (11)	33.3 (23)	30.4 (21)	11.6 (8)	2.9 (2)	0.0 (0)	
5	1.4 (1)	4.3 (3)	8.7 (6)	26.1 (18)	29.0 (20)	14.5 (10)	10.1 (7)	4.3 (3)	1.4 (1)	0.0 (0)	[授業[内容]] 授業の理解度は前学期と比較して同程度と高い評価である。科目によって差があるのは、基礎科目と応用科目、さらには実験・実習との違いによるものと思われる。低学年に基礎力をつけ、高学年の応用・実践につながるよう、各授業に対する授業前準備、授業後の復習時間の確保を徹底していく必要がある。
	0.0 (0)	0.0 (0)	5.8 (4)	8.7 (6)	23.2 (16)	39.1 (27)	20.3 (14)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	5.8 (4)	7.2 (5)	8.7 (6)	18.8 (13)	23.2 (16)	18.8 (13)	11.6 (8)	2.9 (2)	2.9 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	1.4 (1)	13.0 (9)	11.6 (8)	26.1 (18)	24.6 (17)	18.8 (13)	2.9 (2)	1.4 (1)	0.0 (0)	
7	5.8 (4)	8.7 (6)	4.3 (3)	7.2 (5)	17.4 (12)	26.1 (18)	10.1 (7)	10.1 (7)	7.2 (5)	2.9 (2)	[授業[教え方等]] 教員の授業の説明や進め方に関する評価は比較的高かった。視聴覚設備を利用し、視覚的にわかりやすく、具体的に説明することで、効果的な授業運営ができていたものと考え。しかし少数ではあるが、進め方などの教育媒体に満足していない学生もいるようであるため、一方向のみではなく、教員・学生の双方の理解が深められるような工夫が必要と考える。
	1.4 (1)	5.8 (4)	18.8 (13)	14.5 (10)	37.7 (26)	20.3 (14)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (1)	0.0 (0)	
8	4.3 (3)	5.8 (4)	4.3 (3)	10.1 (7)	15.9 (11)	21.7 (15)	18.8 (13)	8.7 (6)	7.2 (5)	2.9 (2)	
	1.4 (1)	8.7 (6)	10.1 (7)	21.7 (15)	34.8 (24)	20.3 (14)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	7.2 (5)	4.3 (3)	8.7 (6)	10.1 (7)	14.5 (10)	30.4 (21)	10.1 (7)	8.7 (6)	2.9 (2)	2.9 (2)	[環境・設備等] 2号館の教室は狭いという意見は非常に多く寄せられる。さらに、隣接している工事現場等の騒音により適切な学習環境とは言えなかった。2号館老朽化による施設・設備改修は少しずつではあるが進んでいるが、まだ十分とは言えない。学生たちがより良い環境で充実した学習ができるよう、引き続き、要望を申請していきたい。
	1.4 (1)	4.3 (3)	11.6 (8)	21.7 (15)	34.8 (24)	18.8 (13)	7.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.4 (1)	5.8 (4)	15.9 (11)	17.4 (12)	21.7 (15)	26.1 (18)	7.2 (5)	4.3 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	2.9 (2)	14.5 (10)	30.4 (21)	18.8 (13)	26.1 (18)	7.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	8.7 (6)	11.6 (8)	30.4 (21)	23.2 (16)	17.4 (12)	7.2 (5)	0.0 (0)	1.4 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (3)	10.1 (7)	26.1 (18)	37.7 (26)	20.3 (14)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学生の授業への取り組む姿勢、課題等の取り組みは良好である。管理栄養士に必要な基礎知識である「化学」と「生物」は入学後にプレイスメントテストを実施し学力を確認しているが、例年「化学」の成績が好ましいものではない。そこで、今後も1年次の基礎科目においては、「化学」の学力向上への取り組みが必要である。また、グローバルな視点をもった管理栄養士の養成が必要であることから、2年次において「科学英語（食品と栄養学を学ぶために）」を開設してゐる。開設され3年目であるが、学生達は積極的に授業に参加しているようである。世界の公衆衛生問題について科学論文（英語）を参考にしながらグループワークし、その成果を英語で発表するなど、英語によるコミュニケーション力のみならず、プレゼンテーション力を学ぶ機会がふえている。さらに、3,4年次には、管理栄養士課程の総まとめとなる国家試験対策として、e-ラーニングを導入し3年目となるが、利用と合格率には一定の相関がみられることから、積極的な利用を促し、国家試験問題に早期から準備をするよう呼びかけていきたい。

4.今後の方針

管理栄養学科は、管理栄養士養成を目的とし学生のほとんどが管理栄養士国家試験受験を目指している。そのため学生の勉学への意欲は非常に高い。平成28年度より新カリキュラムが始まり2年目となる。低学年に基礎知識を修得し、段階的に専門科目へ移行・発展し、体系的により深い学びとなるようにカリキュラム編成をしているが、学生の修得・習熟度状況を把握しながら、今後も授業運営を進めていく必要がある。

1.概評

全体としては、一昨年度、昨年度、と年々、良い評価の割合が増加傾向にある。一方で、高校での履修状況が学生によって異なることから、低学年に開講されている基礎の講義科目の理解度がやや低い傾向がみられた。上級学年の演習科目や実験科目になると、理解が深まり評価も高くなった。低学年での授業方法などの検討を進めることで、上級学年での理解をより深められるような方策を今後検討していく必要がある。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	1.4 (1)	8.7 (6)	18.8 (13)	27.5 (19)	21.7 (15)	17.4 (12)	2.9 (2)	1.4 (1)	0.0 (0)	【学生】 健康デザイン学科は必修科目が多いため、以前はシラバスの確認をする学生が少なめであった。しかし、昨年度、今年度とシラバスを確認する学生が増加してきており、学科としての取り組みの成果が上がってきていると考えられる。学生の授業への取り組みも積極的であり、授業外での学習も年々増えてきている。到達目標の達成についても、学生の評価は昨年度と比較して向上している。
	0.0 (0)	1.4 (1)	7.2 (5)	17.4 (12)	27.5 (19)	37.7 (26)	8.7 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	2.9 (2)	7.2 (5)	5.8 (4)	29.0 (20)	18.8 (13)	21.7 (15)	7.2 (5)	5.8 (4)	1.4 (1)	
	2.9 (2)	2.9 (2)	8.7 (6)	26.1 (18)	14.5 (10)	36.2 (25)	7.2 (5)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (1)	11.6 (8)	13.0 (9)	23.2 (16)	21.7 (15)	17.4 (12)	8.7 (6)	2.9 (2)	
	2.9 (2)	10.1 (7)	21.7 (15)	24.6 (17)	21.7 (15)	13.0 (9)	5.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.9 (2)	2.9 (2)	18.8 (13)	14.5 (10)	18.8 (13)	24.6 (17)	10.1 (7)	2.9 (2)	4.3 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	4.3 (3)	2.9 (2)	11.6 (8)	24.6 (17)	27.5 (19)	26.1 (18)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.4 (1)	5.8 (4)	8.7 (6)	27.5 (19)	20.3 (14)	15.9 (11)	8.7 (6)	8.7 (6)	2.9 (2)	【授業[内容]】 シラバスに記載された内容で実施されていると学生から評価される授業が増えてきている。これは、教員の意識が変わってきているのと同時に、教員から学生に対してシラバスを確認するように指導しているからであると考えられる。授業内容の理解については、一昨年度、昨年度と比較してもそれほど変化がみられない。基礎の講義科目を中心に学生が苦手とする科目については例年評価が低い、実験実習など、応用的な科目になると理解が進んでくるものと考えられる。また、授業内容の理解に変化がないということは、ここ数年の入学者の学力が一定であることも考えられる。
	2.9 (2)	7.2 (5)	10.1 (7)	17.4 (12)	17.4 (12)	40.6 (28)	2.9 (2)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.4 (1)	8.7 (6)	7.2 (5)	20.3 (14)	17.4 (12)	10.1 (7)	14.5 (10)	13.0 (9)	5.8 (4)	1.4 (1)	
	1.4 (1)	7.2 (5)	13.0 (9)	14.5 (10)	18.8 (13)	34.8 (24)	8.7 (6)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.4 (1)	5.8 (4)	5.8 (4)	14.5 (10)	14.5 (10)	15.9 (11)	14.5 (10)	17.4 (12)	5.8 (4)	4.3 (3)	【授業[教え方等]】 科目により評価が大きく分かれた。1年次の基礎的な講義科目での評価がやや低く、上級学年での実践的な演習科目や実験科目の評価が高くなる傾向がみられた。基礎的な講義科目には、化学や生物などがあるが、入学時にはこれらの科目を高校で履修してきていない学生もいるため、未履修の学生に対する特別な配慮が必要になるかもしれない。
	5.8 (4)	5.8 (4)	18.8 (13)	18.8 (13)	26.1 (18)	20.3 (14)	4.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	5.8 (4)	7.2 (5)	13.0 (9)	10.1 (7)	20.3 (14)	14.5 (10)	20.3 (14)	2.9 (2)	5.8 (4)	
	5.8 (4)	7.2 (5)	18.8 (13)	15.9 (11)	27.5 (19)	21.7 (15)	1.4 (1)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	8.7 (6)	10.1 (7)	11.6 (8)	13.0 (9)	17.4 (12)	14.5 (10)	14.5 (10)	5.8 (4)	4.3 (3)	
	5.8 (4)	4.3 (3)	17.4 (12)	21.7 (15)	21.7 (15)	21.7 (15)	7.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.4 (1)	4.3 (3)	7.2 (5)	13.0 (9)	23.2 (16)	18.8 (13)	18.8 (13)	7.2 (5)	5.8 (4)	【環境・設備等】 学習環境については、良い評価が得られた。これは、栄養士必修科目は原則40名以下のクラスで運営されているためであると考えられる。学習環境と評価と比較して、参考図書が図書館にそろっているか、についての評価は低かった。授業内にて、参考書を紹介するなどの取り組みにより、改善が図られるものと考えられる。
	4.3 (3)	11.6 (8)	15.9 (11)	30.4 (21)	15.9 (11)	17.4 (12)	2.9 (2)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	7.2 (5)	21.7 (15)	20.3 (14)	17.4 (12)	11.6 (8)	15.9 (11)	2.9 (2)	2.9 (2)	
	2.9 (2)	4.3 (3)	13.0 (9)	18.8 (13)	20.3 (14)	27.5 (19)	13.0 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学生の高校での履修状況に差があるため、低学年で開講される化学や生物、生化学などの講義科目の理解が進んでいない学生がみられる。一方で、上級学年で開講される演習科目や実験科目などの応用科目になると理解が深まっている。上級学年の科目の理解が深まっていると学生が評価していること自体は好ましいことであると考えられるが、基礎的な科目の理解なしに「応用科目の理解が深まっている」と感じているだけの可能性がある。基礎的科目の理解は、より深い応用科目の理解につながることから、基礎的科目の理解を深めるための方策を検討する必要がある。

4.今後の方針

今年度開設している科目の特性を踏まえた上で、より学生が積極的に授業に参加し、授業外での学習時間を増やし、授業の理解を深めていくための方策が必要であると考えられる。そのため、(1)入学時に学生の高校時代の履修状況を確認し、低学年での基礎科目の授業内容を検討する、(2)授業の内容を深めるための授業外学習に対する具体的な指導、(3)実験実習科目のさらなる充実に向けての、内容の工夫と必要な機器備品の充実、(4)学科内での情報交換の促進、などに取り組んでいきたい。

1.概評

全体の平均に比べて、食安全マネジメント学科全体の評価平均がすべての項目において低くなった。新学科として、これは重大な問題である
と考える。その原因を明らかにするために、評価を細かく見て検討を行いたい。

1学年のみで、授業が10科目しかないのにも係わらず、授業間の差が大きく、全体としての評価が難しい。そこで各項目ごとにもっとも肯定的な学生が多かった科目の学生%を[]に、少なかった科目の学生%を【 】に示した。

2.各質問の評価とその考察											
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。											
（上段がA評価、下段がB評価）											
no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	20.0 (2)	20.0 (2)	60.0 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	【学生】 学生自身の評価では、全体的に授業によって差が大きいことが問題 だと思われる。シラバスで授業内容の確認は、[91.9%]【56.8%】 と差が大きい。これは履修登録時に確認をするよう指導を強めてい きたい。積極的な取り組みは[100.0%]【75.3%】、授業外の学習 [100%]【82.2%】と差は小さい。さらに向上するように指導してい きたい。シラバスの達成目標の達成では、[97.3%]【61.6%】と大 きな差となった。これは大きな問題であり、目標を達成できるよう に教示方法の改善も必要と考えられた。
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.0 (1)	50.0 (5)	40.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	10.0 (1)	10.0 (1)	20.0 (2)	40.0 (4)	20.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	60.0 (6)	30.0 (3)	0.0 (0)	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	20.0 (2)	10.0 (1)	10.0 (1)	40.0 (4)	10.0 (1)	10.0 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	10.0 (1)	30.0 (3)	30.0 (3)	30.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	10.0 (1)	20.0 (2)	60.0 (6)	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.0 (1)	40.0 (4)	30.0 (3)	20.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	40.0 (4)	0.0 (0)	20.0 (2)	30.0 (3)	0.0 (0)	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	【授業[内容]】 シラバス通りに授業が行われたかについて、[94.6%]【68.5%】と 差が大きくなった。この点は、各教員にさらなる協力を求めている 。授業内容の理解では、[97.3%]【38.4%】と50%以上の差が 見られた。これは、大きな問題だと考える。評価の低かった授業に 対しては、教授方法の改善を求めている。
	0.0 (0)	0.0 (0)	10.0 (1)	0.0 (0)	20.0 (2)	50.0 (5)	20.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	20.0 (2)	40.0 (4)	20.0 (2)	20.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	10.0 (1)	10.0 (1)	10.0 (1)	50.0 (5)	10.0 (1)	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	30.0 (3)	10.0 (1)	30.0 (3)	30.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	【授業[教え方等]】 教員の説明では[89.2%]【37.8%】、聞き取りやすさは[90.0%] 【42.5%】、授業の進め方は[86.5%]【30.1%】と50%前後の差 がみられた。この点も大変大きな問題である。特に、否定的な評価 を受けた授業の担当は同一であったことから、効果的な授業ができ るように研鑽を積んでもらえるよう環境を整えていきたい。
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	30.0 (3)	30.0 (3)	30.0 (3)	0.0 (0)	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	20.0 (2)	10.0 (1)	30.0 (3)	40.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.0 (1)	40.0 (4)	50.0 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	30.0 (3)	0.0 (0)	50.0 (5)	20.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	10.0 (1)	20.0 (2)	30.0 (3)	30.0 (3)	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.0 (1)	10.0 (1)	50.0 (5)	20.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	【環境・設備等】 学習環境では[100%]【41.9%】と特に差が大きかった。これは収容 人数ぎりぎりの教室で75名の授業を行ったため、閉塞感を強く感じ たのだと考えられた。参考図書では[97.3%]【70.3%】と差があっ た。これは授業内で参考図書の推薦と資料検索の方法を指導してい くように、各担当にお願いしていきたい。
	0.0 (0)	10.0 (1)	50.0 (5)	40.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	50.0 (5)	30.0 (3)	10.0 (1)	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	30.0 (3)	60.0 (6)	10.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

新しい学科のため、新しい先生方にお授業をお願いしているものが多い。教授経験に差があることから、評価に差が生まれていると考えられた。(今までに教授経験が無くても評価の高い先生もいらっしゃる)

4.今後の方針

どの項目においても、授業によって評価の差が大きいと感じられた。学科のディプロマポリシーを達成するためにも、これは改善しなくてはならない問題である。まだ、1年次生しかいない今だからこそ、改善策を学科全体で考え、対策していく必要があると考えられた。併せて、各教員の教授技術の向上と授業環境の改善を進めていきたい。